もくじ

もくじ 1
はじめに 4
やりたいことを探そう！ 10

1章　本体の機能　15

1　各部の名前 16
❶ 前面図 16
❷ 背面図 18
❸ 裏面図 19
2　システムインジケータ 23
3　キーボード 24
❶ キーボード図 24
❷ キーシフトインジケータの切り替え 26
❸ キーを使った便利な機能 27
4　タッチパッドとマウス 31
❶ タッチパッドを設定するには 31
❷ タッピング機能 32
❸ スクロールスイッチ 34
❹ その他の設定 34
❺ タッチパッドを無効／有効にするには 36
❻ PadTouch 機能を使う 36
❼ マウスの設定 39
5　ライフスタイルパネル 41
❶ ライフスタイルパネルについて 41
❷ 日本語入力パネルを使う 42
❸ オーディオパネルを使う 44
❹ ライフスタイルパネルを交換する 45
6　ディスプレイ 50
❶ ディスプレイの設定 50
❷ 時間帯で壁紙を変える 52

7　ハードディスクドライブ 58
8　サウンド機能 59
❶ スピーカの音量を調整する 59
❷ 音楽／音声の録音レベルを調整する 60
❸ サウンドのパワーマネージメントを設定する 61
❹ マイクの設定を行う 62
9　ドライブ 63
❶ 使用できるメディアと対応するアプリケーション 64
❷ 使用できるCD 67
❸ 使用できるDVD 69
❹ DVD-RAMを使うときは 71
10 フロッピーディスクドライブ 76
❶ フロッピーディスク 76
❷ フロッピーディスクのセットと取り出し 77
❸ フロッピーディスクを使う前に 78
11 SDメモリカード／メモリースティック 82
❶ SDメモリカードについて 82
❷ SDメモリカードのセットと取り出し 83
❸ SDメモリカードを使う前に 84
❹ メモリースティックについて 87
❺ メモリースティックのセットと取り出し 88
❻ メモリースティックを使う前に 89
12 ワンタッチボタン 91

２章　音楽と映像　93

1　音楽 CD を聴く 94
❶ 音楽 CD を再生する 94
2　音楽ファイルを聴く 99
❶ BeatJam でファイルを再生する 99
❷ Windows Media Player でファイルを再生する 103
3　オリジナル音楽 CD を作る 107
❶ Drag'n Drop CD ＋ DVD を使うために 107
❷ Drag'n Drop CD ＋ DVD を使う 109
❸ Drag'n Drop CD ＋ DVD を終了する 111
4　DVD-Video を観る 112
❶ InterVideo WinDVD を起動する 113
❷ InterVideo WinDVD を使う 114
5　デジタルカメラの写真を編集／整理する 118
6　オリジナル DVD を作る 121
❶ 映像データをパソコンに取り込む 122
❷ 映像データの編集について 125
❸ 映像データを DVD に書き込む 126

さくいん 129

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「　」 他のマニュアルへの参照の場合 …『　』 サイバーサポートへの参照の場合 …《　》 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003／ナチュラル インプット 2003を示します。

サイバーサポート
CyberSupport for TOSHIBAを示します。

ドライブ DVDマルチドライブ／マルチドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

参照 詳細について「1章 9 ドライブ」

DVDマルチドライブモデル
DVDマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

DVD-R/-RWドライブモデル
DVD-R/-RWドライブが内蔵されているモデルを示します。

マルチドライブモデル
マルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

TVチューナ内蔵モデル
TVチューナが内蔵されているモデルを示します。

フロッピーディスクドライブ内蔵モデル
フロッピーディスクドライブが内蔵されているモデルを示します。

無線LANモデル
無線LAN機能が内蔵されているモデルを示します。

Office搭載モデル
Microsoft® Office Personal Edition 2003がプレインストールされているモデルを示します。

記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。
- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、OneNote、Outlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス、マイペンシルは、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス /R.2、マイペンシル /R.2は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス /R.2、マイペンシル /R.2にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- CDDBはGracenoteの商標です。
- i.LINKとi.LINKロゴは商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス社の商標または登録商標です。
- LaLaVoice、ekitanExpress、ConfigFreeは（株）東芝の商標または登録商標です。
- The翻訳、The翻訳インターネットは東芝ソリューション株式会社の商標です。
- AdobeはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- Drag'n Dropはイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- 駅すぱあとは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
  Norton Internet SecurityはSymantec Corporationの商標です。
  ©2004 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- InterVideo、WinDVD、WinDVR、WinDVD CreatorはInterVideo, Inc.の登録商標または商標です。

・MagicGate、"メモリースティック"、MEMORY STICK 、"OpenMG" および "OpenMG" ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
・AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
　目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
・目安として、気温 5 ～ 35℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows のツールまたはリカバリ DVD-ROM を使用して再セットアップする手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

参照 詳細について『さあ始めよう 1 章 6 ユーザ登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

やりたいことを探そう！

探しかた

・ホームページを見たい
「Internet Explorer」⇒ XXXXX
→アプリケーション名　→参照ページまたは参照マニュアル名

通信を楽しむ

・プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」⇒『さあ始めよう 3章』

・ホームページを見たい
「Internet Explorer」⇒『さあ始めよう 3章』

・ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳 インターネット」⇒《サイバーサポート》

・海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」⇒『応用にチャレンジ 1章』

・ネットワークの診断や切り替えをしたい
「ConfigFree」⇒『応用にチャレンジ 1章』

メールを使う

・メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Office Outlook」＊1 ⇒《サイバーサポート》

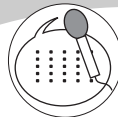
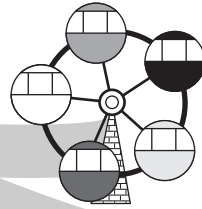
・メールをしたい
「Microsoft Office Outlook」＊1「Outlook Express」
⇒『さあ始めよう 4章』

＊1　Office 搭載モデルのみ

音楽を楽しむ

・音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.94、103

・オリジナル音楽CDを作りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.107

・音楽CDやファイルを再生、管理したい
「BeatJam」⇒P.94、99

音声

・パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》

画像/映像を楽しむ

・デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker(Ulead iPhoto Express)」⇒P.118

・DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.112

・映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい
「WinDVD Creator 2 Platinum」*2 ⇒P.121

・テレビを観たり、録画したい
「WinDVR」*3 ⇒『TV/CD操作ガイド』

*2 DVDへの書き込みはDVDマルチドライブモデルのみ
*3 TVチューナ内蔵モデルのみ

文書/表を作る

- 案内状や報告書を作りたい
  「Microsoft Office Word」＊1 ⇒《サイバーサポート》

- 表やグラフを作りたい
  「Microsoft Office Excel」＊1 ⇒《サイバーサポート》

便利なソフト

- PDFファイルを見たい
  「Adobe Reader」⇒《サイバーサポート》

- 地図で場所を調べたい
  「プロアトラスW2 for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》

- 電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
  「駅すぱあと」「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》

- 年賀状や暑中見舞いを作りたい
  「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》

- ホームページを作りたい
  「ホームページミックス /R.2」⇒《サイバーサポート》

- 日記をつけたい
  「マイペンシル /R.2」⇒《サイバーサポート》

- メモを有効活用したい
  「Microsoft Office OneNote 2003」
  ⇒《サイバーサポート》

- キャラクターで遊びたい
  「ぱらちゃん」⇒《サイバーサポート》

＊1　Office 搭載モデルのみ

パソコンを守る

・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』

・CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒『困ったときは 2章』

パソコンの設定

・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒『困ったときは 1章』

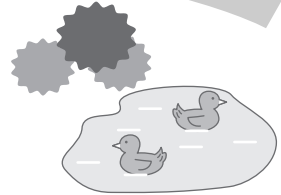
・ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒『応用にチャレンジ 5章』

・ワンタッチボタンの設定を変えたい
「東芝コントロール」⇒P.91

・キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》

・バッテリ駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力」⇒『応用にチャレンジ 3章』

・アイコンやメニューを大きくしたい
「TOSHIBA Smooth View」⇒《サイバーサポート》

・壁紙の設定をしたい
「くるくる壁紙チェンジャー」⇒P.52

1章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。
各部の手入れについても確認してください。

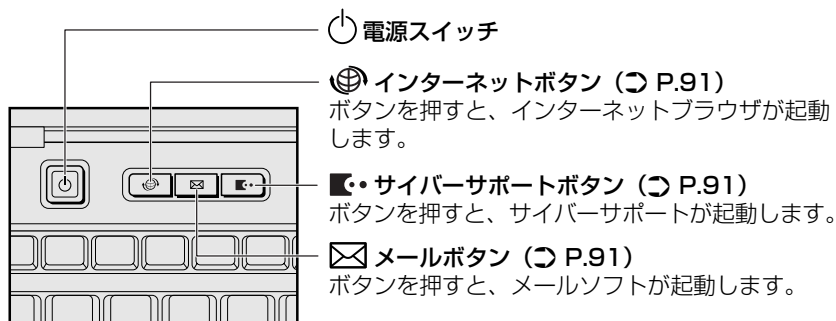
1　各部の名前　16
2　システムインジケータ　23
3　キーボード　24
4　タッチパッドとマウス　31
5　ライフスタイルパネル　41
6　ディスプレイ　50
7　ハードディスクドライブ　58
8　サウンド機能　59
9　ドライブ　63
10　フロッピーディスクドライブ　76
11　SD メモリカード／メモリースティック　82
12　ワンタッチボタン　91

1　各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページや各マニュアルを確認してください。

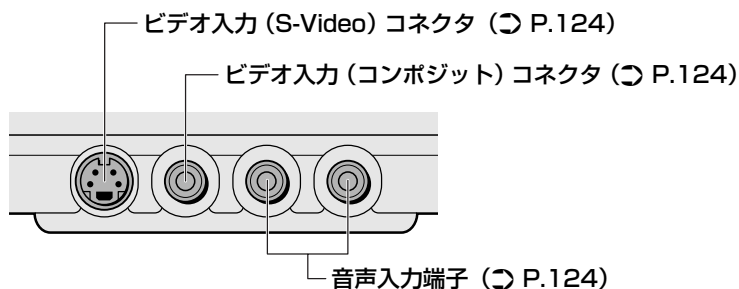
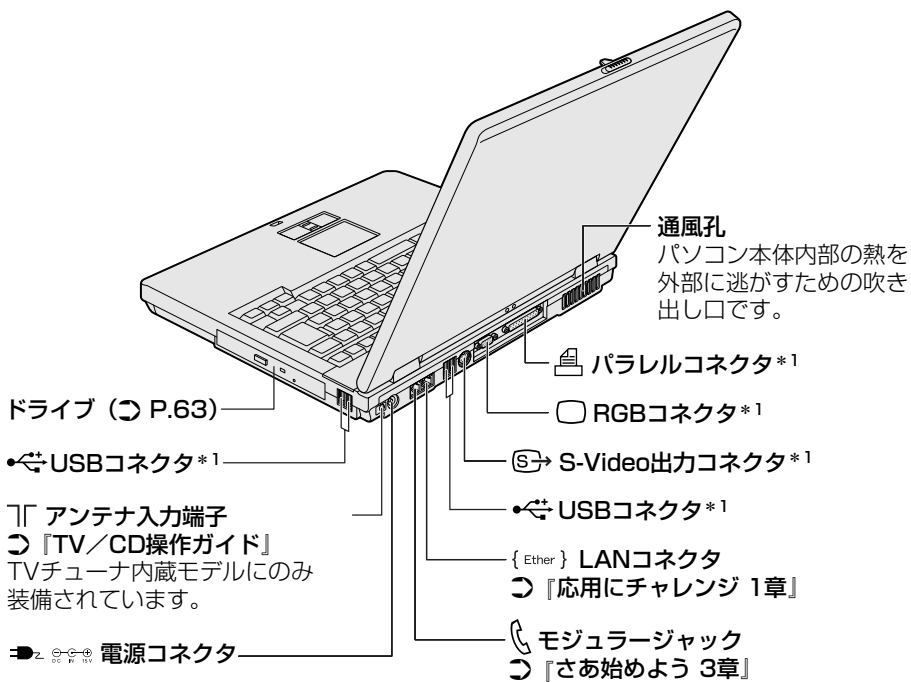
1　前面図

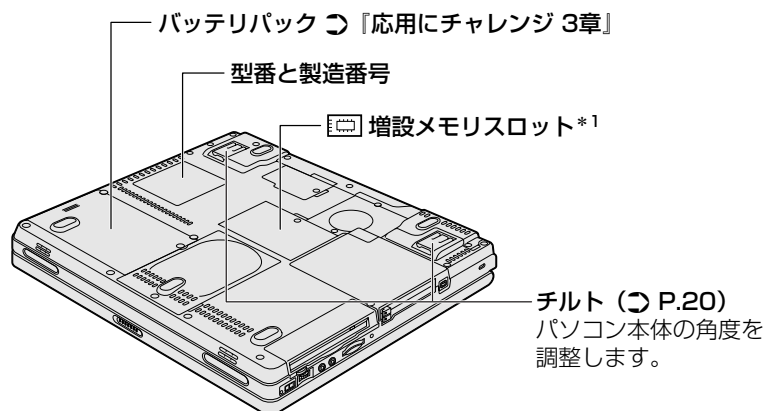
＊1『応用にチャレンジ 2章』を参照してください。

【拡大図 A】

電源スイッチについて
電源スイッチのランプは、ディスプレイを開けると点灯し、ディスプレイを閉じると消灯します。
また次の場合にもランプが消灯します。
・電源を切ったあと 1 分経過したとき
・ディスプレイを開けてから電源スイッチを押さずに 1 分経過したとき

電源スイッチのランプは、パソコンの状態によって光りかたが変化します。
さらに光りかたの設定を変更することができます。
変更方法は『応用にチャレンジ 5 章 2-2- ［ボタン設定］ タブ』を確認してください。

【拡大図 B】

＊ TV チューナ内蔵モデルのみ

② 背面図

＊1『応用にチャレンジ 2章』を参照してください。

③ 裏面図

＊1『応用にチャレンジ 2章』を参照してください。

【 保護フィルムをはがす 】

パソコン本体の上面には、塗装面の傷つき防止のため、保護フィルムが貼ってあります。

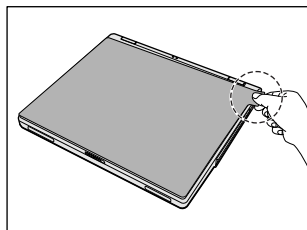
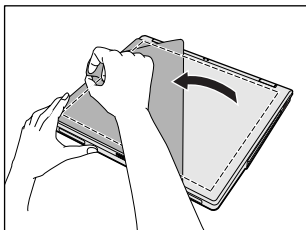
パソコンの動作上は必要ないので、使用する前に必ずはがしてください。保護フィルムを貼ったまま放置しておくと、粘着力が強まってはがれにくくなり、はがそうとしたときに粘着材が残ることがあります。

次のように、はがしてください。

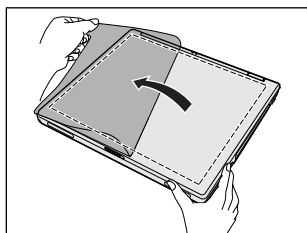
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 パソコンの本体のふちにある、フィルムのはがししろ（図、囲み部分）を持つ

4 矢印のように、パソコンの対角の方向に、ゆっくりと丁寧にはがす

はがすのが難しい場合は、他の人に手伝ってもらいながら行ってください。

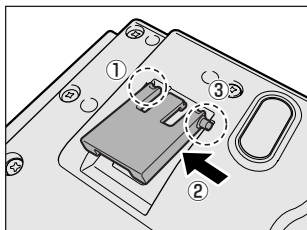
お願い

- 保護フィルムをはがすときは、パソコン本体の中央部分(右図、点線の枠内)をおさえないでください。
  パソコンの内部液晶ディスプレイが破損し、画面が映らなくなるなど、故障するおそれがあります。

- はがした保護フィルムは、子供の手のとどかないところへ捨ててください。

保護フィルムは、ポリプロピレンを使用しています。

【 チルトの取り付け 】

本体裏側のチルトがはずれたときは、次の方法で取り付けてください。

1 チルトの一方の突起部分を本体のくぼみに差し込み①、チルトを少し内側に押しながら②もう一方の突起部分をくぼみにはめる③

⚠警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用してください。本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（＋）（－）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず『さあ始めよう』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【 電源コードの仕様 】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。
使用できる電圧（AC）は、100Vです。
必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

＊取得規格は、電気用品安全法です。

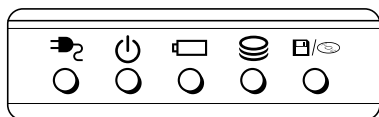
【 ACアダプタの仕様 】

入力： AC100～240V、1.3A-0.7A、50-60Hz
出力： DC15V、5A

パソコン本体／電源コードの取り扱いと手入れ

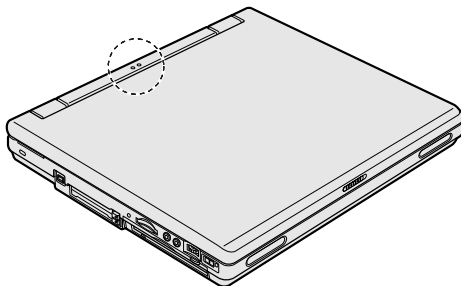
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
  ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
  温度 5 ～ 35℃、湿度 20 ～ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

【 システムインジケータ 】

	DC IN LED	電源コードの接続 参照 『さあ始めよう 1章』
	Power LED	電源の状態 参照 『さあ始めよう 1章』
	Battery LED	バッテリの状態 参照 『応用にチャレンジ 3章』
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照 P.58
/	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスクドライブ、またはドライブにアクセスしている 参照 P.63、76

ディスプレイを閉じたとき

DC IN LEDとPower LEDは、ディスプレイを閉じた状態でも確認することができます。

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

文字入力について『さあ始めよう 2章 4 文字を入力する』

Arrow Mode(アローモード)LED
文字入力のアロー状態を示す

Numeric Mode(ニューメリックモード)LED
文字入力の数字ロック状態を示す

PrtSc(プリントスクリーン)
<SysRq(システムリクエスト)>キー

Pause(ポーズ)<Break(ブレーク)>キー

Ins(インサート)キー
文字の入力モードを挿入／上書きに
切り替えるときなどに使う

Del(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う

BackSpace
(バックスペース)キー

Enter(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う

オーバレイキー

Shift(シフト)キー

矢印キー
カーソル移動などに使う
また、Fn（エフエヌ）キーとの
組み合わせにより、特殊機能を
実行するときに使う

Ctrl(コントロール)キー

アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンやマウスの右ボタンを
押すことと同じ動作を行いたいときに使う

Alt（オルト）キー

カタカナ／ひらがな<ローマ字>キー

変換キー

② キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LEDが点灯します。

【 キーシフトインジケータ 】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	Shift＋Caps Lock 英数	**大文字ロック状態** 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	Fn＋F10	**アロー状態** オーバレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	Fn＋F11	**数字ロック状態** オーバレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押してLEDを消灯します。
すべてのキーを大文字ロック状態で使用する場合は、アロー状態と数字ロック状態は解除してください。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
Fn+Esc 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度Fn+Escキーを押します。
Fn+F1 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す パスワードによる保護を設定（［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで、［パスワードによる保護］または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。
Fn+F2 〈省電力プロファイルの設定〉	Fn+F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力」の省電力プロファイルが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力プロファイルが切り替わります。
Fn+F3 〈スタンバイ機能の実行〉	Fn+F3キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます*1。
Fn+F4 〈休止状態の実行〉	Fn+F4キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックすると休止状態が実行されます*1。

＊1 表示される画面で［今後、このメッセージを表示しない］をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

キー	内容
Fn+F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 『応用にチャレンジ 2章 4 テレビを接続する』
Fn+F6 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	Fnキーを押したまま、F6キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が 1 段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
Fn+F7 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	Fnキーを押したまま、F7キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が 1 段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
Fn+F8 〈無線通信機能を切り替える〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On にしている場合、Fnキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。 ＊本機能はサポートしておりません。
Fn+F9 〈タッチパッドオン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう 1 度Fn+F9キーを押します。 参照 「本章 4-❺ タッチパッドを無効／有効にするには」
Fn+F10 〈オーバレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう 1 度Fn+F10キーを押します。
Fn+F11 〈オーバレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう 1 度Fn+F11キーを押します。 アプリケーションによっては異なる場合があります。
Fn+F12 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう 1 度Fn+F12キーを押します。
Fn+↑ 〈PgUp（ページアップ）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
Fn+↓ 〈PgDn（ページダウン）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。

キー	内容
Fn＋← 〈Home（ホーム）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn＋→ 〈End（エンド）〉	一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
Fn＋1 〈縮小〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
Fn＋2 〈拡大〉	デスクトップや一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

【 (Windows)キーを使ったショートカットキー 】

キー	操作
(Windows)＋R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
(Windows)＋M	すべての画面を最小化する
Shift＋(Windows)＋M	(Windows)＋Mキーで最小化したすべての画面を元に戻す
(Windows)＋F1	『ヘルプとサポート』を起動する
(Windows)＋E	［マイコンピュータ］画面を表示する
(Windows)＋F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl＋(Windows)＋F	他のコンピュータを検索する
(Windows)＋Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
(Windows)＋Break	［システムのプロパティ］画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	Ctrl＋Alt＋Del	［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PrtSc	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Alt＋PrtSc	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

4 タッチパッドとマウス

タッチパッドとマウスを、使いやすく設定できます。

1 タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ]で行います。

1 [マウスのプロパティ]の起動方法

1 [コントロールパネル]を開き、[プリンタとその他のハードウェア]をクリックする

2 [マウス]をクリックする

[マウスのプロパティ]画面が表示されます。

3 各タブで機能を設定し、[OK]ボタンをクリックする

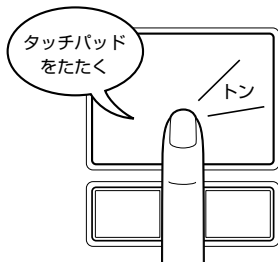
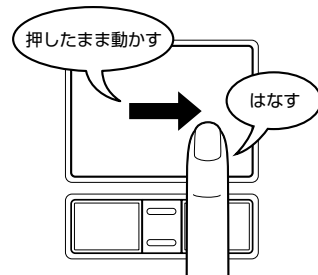
各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

② タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

【 クリック / ダブルクリック 】
タッチパッドを 1 回軽くたたくとクリック、2 回たたくとダブルクリックができます。

【 ドラッグアンドドロップ 】
タッチパッドを続けて 2 回たたき、2 回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。

参照 関連情報は『さあ始めよう 2 章 1-❶ タッチパッド』

2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、［拡張］タブでできます。［マウスのプロパティ］画面で、次のように操作してください。

1 ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする

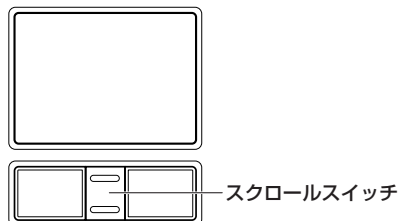
［拡張機能の設定］画面が表示されます。

［拡張機能の設定］画面の［タッチパッド］タブで設定できる機能は、次のようになっています。

ボタンの設定	タッチパッドの左上、右上、左下、右下をタッピングしたときの動作や、各ボタンの動作などを設定できます。
タッチパッド面の設定	タッチパッドでブラウザの動作をしたり、スクロールをしたりできるよう設定できます。
ポインタ速度とタッピングの設定	タッチパッド操作でのポインタ速度やタッピング、タッチ感度などの各設定ができます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の［説明］フィールドに機能説明が表示されます。

③ スクロールスイッチ

左ボタンと右ボタンの間のボタンを、スクロールスイッチと呼びます。スクロールスイッチを使用すると、アプリケーションの文書画面などを上下にスクロールすることができます。

スクロールスイッチの操作は、次のようになっています。

キーボード側に倒す	画面が上にスクロールします。
手前に倒す	画面が下にスクロールします。
真下に押す	ポインタが や に変わります。スクロールしたい方向にポインタを少し動かすと、ポインタの形がスクロールしたい方向の矢印に変わり、自動的に画面がスクロールされます。もう 1 度押すと、通常の状態に戻ります。アプリケーションによっては対応していない場合もあります。

④ その他の設定

［拡張機能の設定］画面の［その他］タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。
［マウスのプロパティ］画面で、次のように操作してください。

1 ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする

［拡張機能の設定］画面が表示されます。

2 ［その他］タブを選択する

【 サウンドフィードバック 】

チェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。
［設定］ボタンをクリックすると、［サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ］画面が表示されます。
［サウンド］タブの［プログラムイベント］で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【 タスクトレイアイコン 】

チェックすると、通知領域に［Touch Pad］アイコン（ ）が表示されます。
購入時にはチェックされています。

【 IME キャプチャー 】

チェックすると、タッチパッドを IME パッドの手書き入力エリアとして使用できます。
IME パッドの手書き入力エリアにポインタをあわせて右クリックすると、ポインタが羽に変わり、入力ができます。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

各項目にポインタをあわせると、画面下部の［説明］フィールドに機能説明が表示されます。

5 タッチパッドを無効／有効にするには

［タッチパッド ON/OFF］タブでは、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

【 タッチパッドの ON/OFF 】

［有効］をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、［無効］をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。
タッチパッドの無効／有効は、Fn＋F9キーでも切り替えることができます。
Fn＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1 度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

6 PadTouch 機能を使う

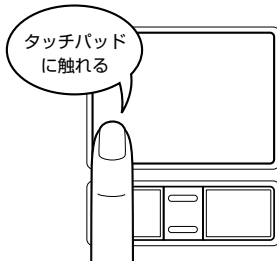
「PadTouch（パッドタッチ）」は、タッチパッドの操作により、さまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。
次のようなときに使用すると便利です。

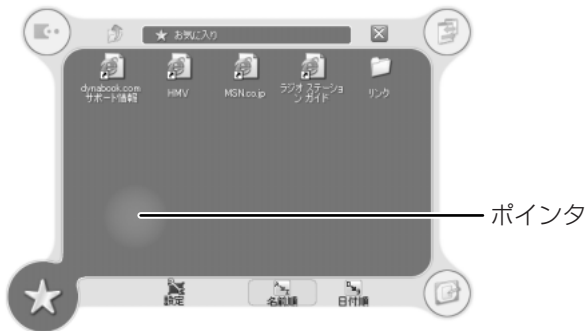
- ウィンドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
- Internet Explorer の［お気に入り］に登録されているホームページを開きたい
- 現在実行中のウィンドウの一覧を表示して、アクティブなウィンドウを切り替えたい

「PadTouch」は、購入時の状態ではパソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

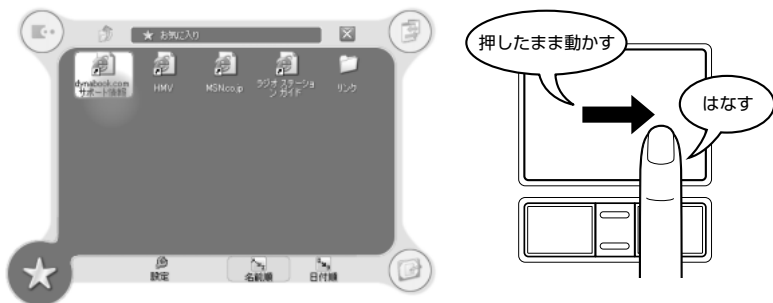
1 使用方法

次のように操作して、PadTouch を使用してください。

1 タッチパッドのコーナーに数秒間触わる

このとき、指を動かさないで触ったままにしてください。

PadTouch の画面が表示されます。
表示される画面のことを、PadTouch では「テーブル」と呼びます。丸い形状のものは、テーブル上のどこが操作対象になるのかを示すポインタです。タッチパッドに触ったまま指をすべらせると、テーブル上をポインタが動きます。

表示されているテーブルは、タッチパッドの左下コーナーに触れた場合に起動する［お気に入り］のテーブルです。
起動するテーブルは、タッチパッドのどこに触れるかによって違います。購入時は、次のように設定されています。

右上コーナーの場合	［ウィンドウ切り替え］テーブル
右下コーナーの場合	［デスクトップ］テーブル
左上コーナーの場合	［dynabook オリジナルツール］テーブル
左下コーナーの場合	［お気に入り］テーブル

2 ポインタを目的のアイコンにあわせ、タッチパッドから手をはなす

ポインタをあわせたアイコンのプログラムなどが起動します。

手をはなしてプログラムなどを起動させた場合、それまで表示されていたテーブルは自動的に消えます。
何も選択しないでテーブルを消したい場合は、［閉じる］アイコン（ ）にポインタをあわせた状態、または、どのアイコンにもポインタをあわせていない状態で、タッチパッドから手をはなしてください。

2 設定方法

PadTouchでは、起動するプログラムや画面デザインなどを設定することができます。次のように操作して、設定画面を起動してください。

1 タッチパッドのコーナーに触れてテーブルを表示し、[設定]にカーソルをあわせて手をはなす

PadTouchの設定画面が表示されます。

設定の詳細については、ヘルプを参照してください。

3 PadTouchを無効にする方法

PadTouchを無効にするには、次のように操作してください。

1 通知領域の[PadTouch]アイコン( )を右クリックし、表示されたメニューから[無効にする]をクリックする

PadTouchが使用できなくなります。

再びPadTouchを使用したい場合は、通知領域の[PadTouch]アイコン( )を右クリックし、表示されたメニューから[有効にする]をクリックしてください。

ヘルプの起動方法

1 通知領域の[PadTouch]アイコン( )を右クリックし、表示されたメニューから[ヘルプ]をクリックする

7 マウスの設定

マウスのボタンなどの設定もできます。

本製品には、USBマウスが同梱されています。接続方法は『応用にチャレンジ 2章 3 USB対応機器を接続する』を参照してください。

マウスの使用方法は『さあ始めよう 2章 1-❷ マウス』を参照してください。

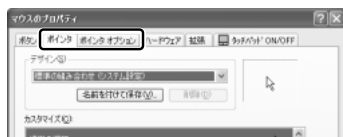
1 マウスの設定を変更する

［ボタン］タブで設定します。

ボタンの構成	マウスの右ボタンと左ボタンの役割を入れ換えます。
ダブルクリックの速度	スライダーバーを動かして、ダブルクリックするときの速度を調整します。
クリックロック	マウスのボタンを押したままにしなくても、ドラッグできるようにします。

役立つ操作集

ポインタの形や速度を変える

［マウスのプロパティ］では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。
［ポインタ］タブでは形を、［ポインタオプション］タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。

ヘルプの起動方法

1 ［マウスのプロパティ］画面を起動後、画面右上の ? をクリックする

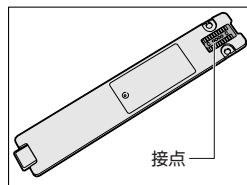
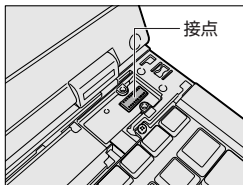
ポインタが ? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

5 ライフスタイルパネル

本製品には、ライフスタイルパネルが用意されています。
ライフスタイルパネルは、アプリケーションなどの操作を簡単に行うためのものです。
用途にあわせてパネルを取り換えて使用できます。
パソコンを使用するときは、必ずどれかパネルを取り付けた状態で使用してください。

⚠ 注 意

- ライフスタイルパネルの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ライフスタイルパネルを交換するとき、接点の部分（図示部分）に触れないでください。接点にゴミが付着すると、正常に使用できなくなり、故障のおそれがあります。

お願い

ライフスタイルパネルを交換するとき、パネルを固定していたネジやバッテリカバーを固定していたネジが本体の内部に入らないようにしてください。
また、ネジをなくさないようにしてください。

1 ライフスタイルパネルについて

本製品には次のパネルが用意されています。

マルチ AV パネル（モデルによっては同梱されていません）
パソコンでテレビや DVD-Video を見たり、音楽 CD を聴くときに、操作を簡単に行えるパネルです。カバーとあわせて使用します。

参照 マルチ AV パネルの使いかた『TV ／ CD 操作ガイド』

日本語入力パネル
日本語入力の際に、便利なパネルです。カバーとあわせて使用します。

参照 日本語入力パネルの使いかた「本節 ❷ 日本語入力パネルを使う」

オーディオパネル（モデルによっては同梱されていません）
パソコンでDVD-Videoを見たり、音楽CDを聴くときに、操作を簡単に行えるパネルです。カバーとあわせて使用します。

参照 オーディオパネルの使いかた「本節 ❸ オーディオパネルを使う」

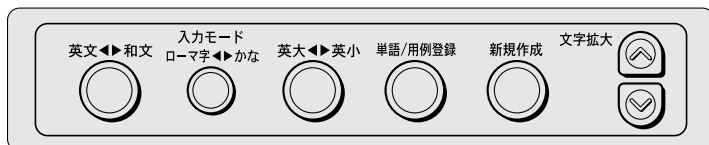
フォトフレームパネル（モデルによっては同梱されていません）
写真などを入れることができるパネルです。カバーとあわせて使用します。入れる写真の大きさは、縦20.4×横110.4mmを目安にしてください。

フラットパネル
電源スイッチとワンタッチボタンの他に何もないパネルです。

購入時には、モデルによってマルチAVパネルか日本語入力パネルのどちらかが取り付けられています。

参照 ライフスタイルパネルの取り換えかた
「本節 ❹ ライフスタイルパネルを交換する」

② 日本語入力パネルを使う

日本語入力時の入力モード切り替えなどを、簡単に行えます。

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

【 英文 ◀▶ 和文 】
日本語入力システムMS-IMEのON／OFFを切り替えます。

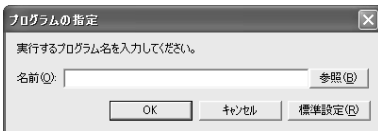
【 入力モード ローマ字 ◀▶ かな 】
ローマ字入力とかな入力を切り替えます。

【 英大 ◀▶ 英小 】
大文字入力と小文字入力を切り替えます。

【 単語／用例登録 】

日本語入力システム MS-IME が ON の状態のとき、MS-IME の［単語／用例の登録］画面を起動します。このとき、MS-IME のキー設定が標準設定である必要があります。

【 新規作成 】

設定されているアプリケーションを起動します。購入時は、「Microsoft Office Word」が設定されています。
［新規作成］ボタンを約 1 秒押したままにすると、［プログラムの指定］画面が表示され、起動するアプリケーションを変更できます。

設定したいアプリケーションの名前を直接入力するか、［参照］ボタンをクリックして表示されたリストから選択してください。

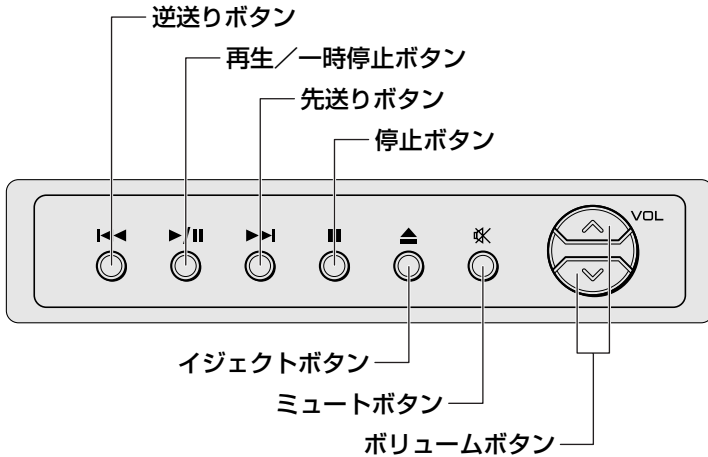
【 文字拡大 ⌃ 】

画面やアイコンなどを拡大します。［文字拡大 ⌃ ］ボタンを約 1 秒押したままにすると［TOSHIBA Smooth View のプロパティ］画面が表示され、ボタンについて設定できます。

【 文字拡大 ⌄ 】

画面やアイコンなどを縮小します。［文字拡大 ⌄ ］ボタンを約 1 秒押したままにすると［TOSHIBA Smooth View のプロパティ］画面が表示され、ボタンについて設定できます。

3 オーディオパネルを使う

CD ／ DVD または音楽ファイルを再生するときに、使用できます。

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

【 逆送り 】

再生するトラックを 1 つ戻します。

【 再生 / 一時停止 】

現在使用している音楽再生ソフトの再生、一時停止を行います。
またパソコン本体に電源が入っていなくても、再生／一時停止ボタンまたはイジェクトボタンを押すとドライブに電源が入り、オーディオ操作ができます。
使用するソフトウェアが起動していない場合、ドライブにセットされているメディアをチェックして、使用するソフトウェアを起動します。
セットされているメディアによって、次のソフトウェアが起動します。

ドライブに DVD をセットした場合 ：「InterVideo WinDVD」
DVD 以外をセットした場合 ：「Windows Media Player」

＊ パソコン本体に電源が入っていないときに音楽 CD をセットすると、Windows が起動していない状態でオーディオ操作できます。

【 先送り 】

再生するトラックを 1 つ進めます。

【 停止 】
再生を停止します。

【 イジェクト 】
ドライブからメディアを取り出したいときにこのボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。
なお、CD または DVD にデータの書き込みを行っているときは、ボタンを押してもディスクトレイは出てきません。

【 ミュート 】
音を消したいときに押します。
再び音を再生したいときは、ボリュームボタン（︽）を押してください。

【 Vol ︽ ボリューム 】
音量を大きくしたいときに押します。

【 Vol ︾ ボリューム 】
音量を小さくしたいときに押します。

4 ライフスタイルパネルを交換する

ライフスタイルパネルの交換方法を説明します。
パネルによって、取りはずし／取り付けの手順が違います。目的にあった手順を参照してください。

お願い

カバーやフラットパネルをスライドするときに、電源スイッチやワンタッチボタンを押さないでください。押しながらスライドすると、下にあるボタンの基板にカバーが接触し、基板を傷つけて、これらのボタンが故障するおそれがあります。

1 パネル＊1の取りはずし

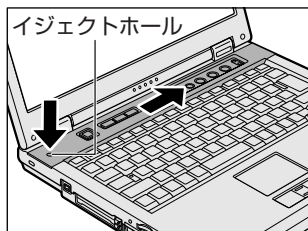
＊1 ここでいうパネルは、日本語入力パネル、オーディオパネル、マルチ AV パネル、フォトフレームパネルを示します。

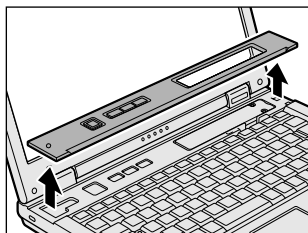
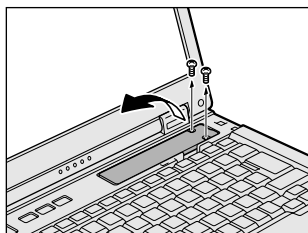
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 **パソコン本体から AC アダプタとバッテリ、周辺機器のケーブル類をはずす**

参照 バッテリパックの取りはずし
『応用にチャレンジ 3 章 1-❸ バッテリパックを交換する』

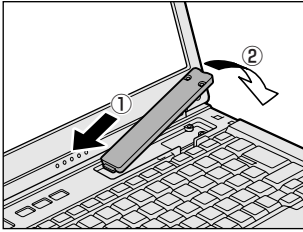
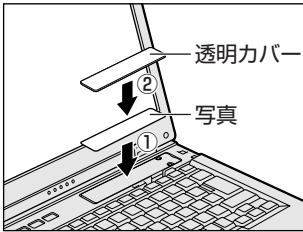
3 **ライフスタイルパネルのイジェクトホールを先の細い丈夫なもの（ボールペンなど）で押したまま、カバーを右にスライドする**

バッテリパックを取りはずしたときのネジが本体内部に入らないよう、注意してください。

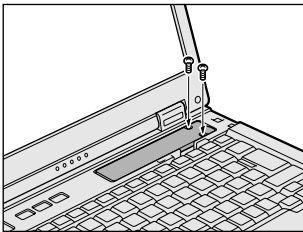
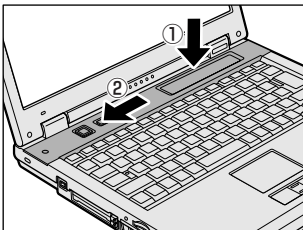
4 **カバーを取りはずす**

5 **パネルを固定しているネジ 2 本をはずし、取りはずす**

ここではずしたネジは、なくさないよう大切に保管してください。
フォトフレームパネルの場合は、透明カバーと写真も一緒に取りはずしてください。

以降の説明を参照して取り付けたいパネルを取り付けてから、パソコンを使用してください。

2 パネル＊1の取り付け

＊1 ここでいうパネルは、日本語入力パネル、オーディオパネル、マルチ AV パネル、フォトフレームパネルを示します。

1 パネルをセットする

パネルの左端にあるツメをパソコン本体に引っかけて①、セットしてください②。

フォトフレームパネルの場合、セットしたパネルに写真を置き①、その上から透明カバーをセットしてください②。
またフォトフレームパネルの透明カバーには、保護シートが両面に貼り付けてあります。保護シートをはがしてから使用してください。

2 パネルを、ネジ２本でとめる

3 カバーを取り付ける

留め金の位置にあわせて差し込み①、カチッと音がするまで左へスライドしてください②。

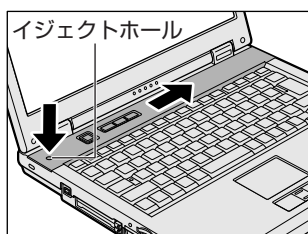
3 フラットパネルの取りはずし

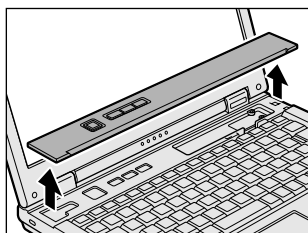
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタとバッテリ、周辺機器のケーブル類をはずす

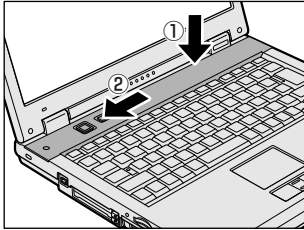
参照 バッテリパックの取りはずし
『応用にチャレンジ 3 章 1-❸ バッテリパックを交換する』

3 ライフスタイルパネルのイジェクトホールを先の細い丈夫なもの（ボールペンなど）で押したまま、フラットパネルを右にスライドする

バッテリパックを取りはずしたときのネジが本体内部に入らないよう、注意してください。

4 フラットパネルを取りはずす

前項か次項を参照して取り付けたいパネルを取り付けてから、パソコンを使用してください。

4 フラットパネルの取り付け

マルチ AV パネルや日本語入力パネル、オーディオパネルまたはフォトフレームパネルを取り付けた状態で、フラットパネルを取り付けることはできません。

1 フラットパネルをセットする

留め金の位置にあわせて差し込み①、カチッと音がするまで左へスライドしてください②。

6 ディスプレイ

本製品には表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768ドット）が内蔵されています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 外部ディスプレイの接続について
『応用にチャレンジ 2章 5 外部ディスプレイを接続する』

表示について

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1920×1440ドット	1,677万色
1600×1200ドット	
1400×1050ドット	
1280×1024ドット	
1024×768ドット	
800×600ドット	

1280×1024ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

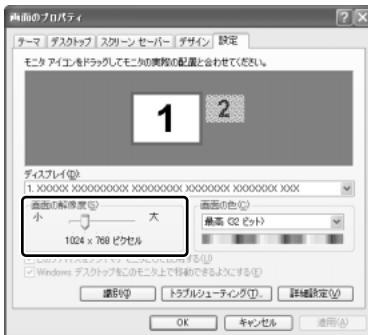
- 1,677万色はディザリング表示です。
  ディザリングとは、1画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 内部液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677万色はディザリング表示です。内部液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱいに大きく表示されます。内部液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

2 ［設定］タブの［画面の解像度］で、解像度を変更する

3 ［OK］ボタンをクリックする

② 時間帯で壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使って、デスクトップの壁紙を時間帯に応じて自動的に切り替えられます。また記念日や予定のある日には、イベントアイコンをデスクトップに表示できます。

1 壁紙を変える

「くるくる壁紙チェンジャー」を使用するには、あらかじめ次の設定を行ってください。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリックする

2 ［デスクトップの背景を変更する］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

3 ［デスクトップ］タブで［参照］ボタンをクリックする

4 ［マイドキュメント］をクリックする

5 ［dynabookFun 壁紙］をクリックし①、［開く］ボタンをクリックする②

6 ［画面のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

【 用意されている壁紙から選択する 】

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［くるくる壁紙チェンジャー］をクリックする

2 ［時間帯モード］タブで設定する時間帯を選択する

3 ［壁紙の種類］で壁紙の種類を選択し①、［お気に入りの壁紙を選択してください］から壁紙を選択する②

①の［壁紙の種類］で［ファンシー］［エレガント］［フォト］をクリックすると、②の［お気に入りの壁紙を選択してください］に表示される壁紙のサンプルが変わります。［ランダム］ボタンをクリックすると、［お気に入りの壁紙を選択してください］に表示される壁紙のサンプルの中からランダムに切り替えます。選択された画像は上の赤い枠内に表示されます。

参照 ［お気に入り］をクリックした場合
「本項-お気に入りの画像を壁紙に設定する」

手順２と３を繰り返し、それぞれの時間帯の時間の設定と壁紙の選択をしてください。

4 ［OK］ボタンをクリックする

【 お気に入りの画像を壁紙に設定する 】

1 **お気に入りの画像ファイルを［マイ ピクチャ］フォルダの［くるくるお気に入り］フォルダにコピーする**

壁紙として選択できるファイル形式は、JPEG、GIF、BMP です。

2 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［くるくる壁紙チェンジャー］をクリックする**

3 **［時間帯モード］タブで設定する時間帯を選択する**

4 **［壁紙の種類］で［お気に入り］をクリックする**

5 **◀ ▶ ボタンで画像を選択する①**

6 **［OK］ボタンをクリックする**

2 イベントアイコンを表示する

誕生日や旅行の予定など、スケジュール帳のようにその日のイベントがわかるアイコンを表示することができます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［くるくる壁紙チェンジャー］をクリックする

2 ［デイリーモード］タブで［壁紙設定カレンダー］から年月を選択し①、日付を選択する②

3 イベントアイコンを選択し、メッセージを入力する

メッセージは全角で10文字まで入力できます。

イベントアイコンを表示する日の壁紙を設定する場合は手順4へ進んでください。
［時間帯モード］タブで設定した壁紙と同じ壁紙にイベントアイコンを表示する場合は手順5へ進んでください。

4 ［壁紙の種類］で壁紙の種類を選択し①、◀ ▶ ボタンで壁紙を選択する②

選択した壁紙のサイズが画面サイズより小さい場合は、［表示位置］で［並べて表示］を選択すると同じ画像を並べて表示することができます。

5 ［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 設定できるイベント数は1日1件、最大50日です。
- 手順４で［並べて表示］を選択した場合、［お気に入りの壁紙を選択してください］では４分割に表示されますが、実際の表示とは異なります。

3 初期設定に戻す

それぞれのタブの［初期設定に戻す］ボタンを使うと、購入時の設定に戻ります。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［くるくる壁紙チェンジャー］をクリックする

2 初期設定に戻すタブを選択し、［初期設定に戻す］ボタンをクリックする

3 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

メモ

「マイドキュメント」フォルダのファイル「dynabookFun壁紙.html」は削除しないでください。削除すると、次に起動したときに壁紙やイベントアイコンのすべての設定が無効になります。誤ってファイルを削除したときは、「くるくる壁紙チェンジャー」を起動して［OK］ボタンをクリックすると「dynabookFun 壁紙 .html」が作成され、設定が有効になります。

ヘルプの起動方法

1 「くるくる壁紙チェンジャー」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

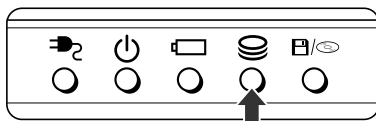
7 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い　操作にあたって

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD ／ DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD ／ DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。

PC カードタイプや i.LINK（IEEE1394）対応などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

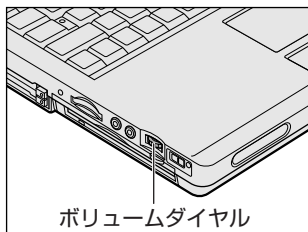
8 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

【 音楽／音声を再生するとき 】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD（BeatJam、Windows Media Player の場合）、DVD-Video など
CD プレーヤー	音楽 CD（BeatJam、Windows Media Player 以外の場合）

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする**

2 **メニューバーの［オプション］→［プロパティ］をクリックする**

3 **［音量の調整］で［録音］をチェックする**

4 **［表示するコントロール］で表示項目を確認する**

［マイク］がチェックされていることを確認します。

5 **［OK］ボタンをクリックする**

6 **［録音コントロール］画面で、使用するデバイスの［選択］をチェックする**

［マイク］：外部マイクから録音するとき

7 **選択したデバイスのつまみで音量を調節する**

同時に 2 つのデバイスを選択することはできません。

録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの［WAVE］対応の場合、録音するときも［WAVE］の音量により影響を受けます。

③ サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネージメント機能を設定できるようになっています。
この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。
購入時は、本機能が有効に設定されています。
消費電力の節約の程度は、バッテリの状態によって異なります。

1 サウンドコントローラの起動方法

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする

3 ［ SoundMAX］をクリックする

2 パワーマネージメントの設定方法

1 ［SoundMAX コントロールパネル］画面で［電源管理］タブの［パワーモード］で［ハイ・パワーセービング］を選択する

2 ［OK］ボタンをクリックする

❹ マイクの設定を行う

本製品では、マイクから録音するときの設定を行うことができます。
［SoundMAX コントロールパネル］画面の［マイク］タブで設定します。

参照 ［SoundMAX コントロールパネル］画面の起動
「本節 ❸-1 サウンドコントローラの起動方法」

【 マイクの設定 】

使用しているマイクに適した入力状態を設定します。

- 標準マイク　：本製品の内蔵マイクまたは通常のデスクトップ型マイクを使用している場合
- ヘッドセット：マイクが口の正面に位置する装着型マイクを使用している場合

9 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブ、DVD-R/-RW ドライブ、またはマルチドライブが 1 台内蔵されています。内蔵されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

- DVD マルチドライブ
  DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。
- DVD-R/-RW ドライブ
  DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。
- マルチドライブ
  CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。

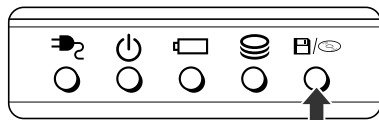
『安心してお使いいただくために』に、CD ／ DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD ／ DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、FDD/CD-ROM 🖫/◎ LED が点灯します。

1章 本体の機能

1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアはモデルによって異なります。

DVD マルチドライブモデル

【 使用できるメディア 】

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能*2	1回	繰り返し書換可能*2	繰り返し書換可能*2	×	×

＊1　使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
＊2　実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【 アプリケーションと書き込み可能なメディア 】

「Drag'n Drop CD+DVD」「WinDVD Creator 2 Platinum」は本製品に付属のアプリケーションです。

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM *3
Drag'n Drop CD+DVD	○	○	○*2	○*2	×
WinDVD Creator 2 Platinum (DVD-Videoフォーマット*1)	×	×	○	○	○
WinDVD Creator 2 Platinum (-VR フォーマット*1)	×	×	×	×	○

＊1 映像を書き込むときの記録形式です。表に記載されている形式でのみ書き込みできます。
DVD-Videoフォーマットで記録されたDVD-RW、DVD-Rは、DVD-RW、DVD-Rに対応したDVDプレーヤ、パソコン、ゲーム機など色々な環境で再生できます（一部の機器では再生できない場合があります）。
DVD-Videoフォーマットで記録されたDVD-RAMは、本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。
-VRフォーマットで記録されたDVD-RAMは、DVD-RAM機能が搭載され、-VRフォーマットに対応したDVDレコーダなどで再生できます（一部の機器では再生できない場合があります）。
映像データを-VRフォーマットでDVD-RAMに記録する、または-VRフォーマットで記録されたDVD-RAMの映像データを編集する場合は、「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ディスクマネージャ」を使用してください。
＊2 DVD-Video、DVD-Audioの作成や音楽情報の書き込みはできません。また、DVDプレーヤなどで使用することはできません。
＊3 パソコンで作成した文書データなどのファイルをDVD-RAMに書き込む場合は、［マイコンピュータ］で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーしてください。なお、新品のDVD-RAMは、使用前にフォーマットが必要です。

参照 ファイルやフォルダのコピー
『さあ始めよう 2章 6-❷ ファイルやフォルダをコピーする』

参照 フォーマット「本節 ❹ DVD-RAMを使うときは」

DVD-R/-RWドライブモデル

【 使用できるメディア 】

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○＊1	○＊1	○＊1	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し書換可能＊2	1回	繰り返し書換可能＊2	×	×	×

＊1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【 アプリケーションと書き込み可能なメディア 】

「Drag'n Drop CD+DVD」「WinDVD Creator 2 Platinum」は本製品に付属のアプリケーションです。

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM
Drag'n Drop CD+DVD	○	○	○＊2	○＊2	×
WinDVD Creator 2 Platinum (DVD-Videoフォーマット＊1)	×	×	○	○	×
WinDVD Creator 2 Platinum (-VR フォーマット＊1)	×	×	×	×	×

＊ 1　映像を書き込むときの記録形式です。表に記載されている形式でのみ書き込みできます。
DVD-Video フォーマットで記録された DVD-RW、DVD-R は、DVD-RW、DVD-R に対応した DVD プレーヤ、パソコン、ゲーム機など色々な環境で再生できます（一部の機器では再生できない場合があります）。
DVD-R/-RW ドライブモデルの場合、「WinDVD Creator 2 Platinum」で DVD-RAM は使用できません。

＊ 2　DVD-Video、DVD-Audio の作成や音楽情報の書き込みはできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

マルチドライブモデル

【 使用できるメディア 】

○：使用できる　×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○＊1	○＊1	○＊1	×	×
書き込み回数	1 回	繰り返し書換可能＊2	×	×	×	×	×

＊ 1　使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

＊ 2　実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

【 アプリケーションと書き込み可能なメディア 】

CD-R、CD-RW には本製品に付属の「Drag'n Drop CD ＋ DVD」で書き込みができます。

2 使用できるCD

読み出しできるCDは、次の種類です。
対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD
  8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
  普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
  使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
  記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできるCDは、次の種類です。

- CD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

DVDマルチドライブモデルまたはDVD-R/-RWドライブモデル

CD-Rメディア　：最大16倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア　：最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア　：最大8倍速
Ultra Speed CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

マルチドライブモデル

CD-Rメディア　：最大24倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア　：最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア　：最大10倍速
Ultra Speed CD-RWメディア　：最大24倍速

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

  CD-RW（マルチスピード、High-Speed）
  ： 三菱化学（株）、（株）リコー
  CD-RW（Ultra Speed）＊マルチドライブモデルのみ
  ： 三菱化学（株）
  CD-R ： 太陽誘電（株）、三菱化学（株）、（株）リコー、日立マクセル（株）

  これらのメーカ以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェック《サイバーサポート》
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できるDVD

読み出しできるDVDは、次の種類です。
対応フォーマットによっては、再生ソフトが必要な場合があります。

●DVD-ROM　●DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
●DVD-R　●DVD-RW　●DVD-RAM

DVDマルチドライブモデルまたはDVD-R/-RWドライブモデルでは、DVDに書き込むことができます。書き込みできるDVDは次の種類です。

- DVD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
  DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
  DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）
  DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0または2.1規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAMの種類 】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

＊1　一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2　2.6GB、5.2GBのディスクはDVDマルチドライブモデルでは書き込みできません。また、DVD-R/-RWドライブモデルおよびマルチドライブモデルでは使用できません。

お願い **DVDマルチドライブモデル、DVD-R/-RWドライブモデルの場合**

- DVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）、DVD-RW、DVD-Rに書き込む際には、次のメーカのDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用することを推奨します。

  DVD-RAM ：松下電器産業（株）
  DVD-RW ：日本ビクター（株）、TDK（株）
  DVD-R ：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）、パイオニア（株）

  これらのメーカ以外のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RWに書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

  参照 エラーチェック《サイバーサポート》
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）、DVD-RW、DVD-Rにデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rには「for Data」と「for Video」の２種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 DVD-RAMを使うときは

＊DVDマルチドライブモデルのみ

ここでは、DVDマルチドライブモデルでDVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。
ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

参照 「本項 2- PDFマニュアルの起動方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【UDF2.0】

DVD-VR形式に対応したファイルシステムです。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP／2000＊[1]がインストールされたパソコン＊[2]でもデータを読み出すことができます。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1 Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System日本語版
＊2 DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

【FAT32】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP／Me＊[1]／98＊[2]がインストールされたパソコン＊[3]でもデータを読み出すことができます。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1 Windows Me ... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System日本語版
＊2 Windows 98 ... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System日本語版
＊3 DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み出すためには、DVD-RAMの読み出しに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照 DVD-RAM のセット『さあ始めよう 2 章 1-❸ CD ／ DVD』

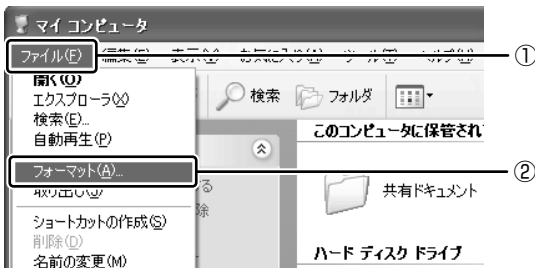
2 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

［マイ コンピュータ］画面が表示されます。

3 ［ DVD-RAM ドライブ（D:)］をクリックする

［DVD-RAM ドライブ（D:)］が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの［ファイル］をクリックし①、表示されたメニューから［フォーマット］をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

［DVDForm - D ドライブ］画面が表示されます。

5 ［ドライブ］と［フォーマット種別］を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、［ユニバーサルディスクフォーマット（UDF2.0)］を選択してください。
パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、［ユニバーサルディスクフォーマット（UDF1.5)］を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 ［開始］ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、［物理フォーマットを実行する］をチェックしてから、［開始］ボタンをクリックしてください。
物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません)。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットが完了するまでに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
他の DVD-RAM も続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順５から実行します。
フォーマットを終了する場合は、［DVDForm - D ドライブ］画面で［閉じる］ボタンをクリックしてください。

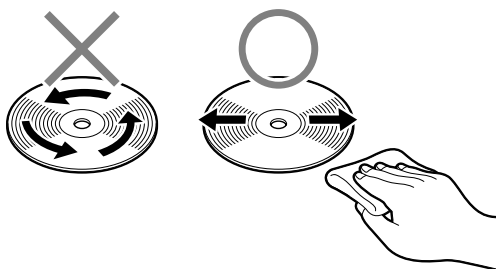
PDF マニュアルの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［DVD-RAM］→［DVD-RAM ドライバー］→［DVD-RAM ディスクの使い方］をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

CD ／ DVD の取り扱いと手入れ

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。
  ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。
  円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

10 フロッピーディスクドライブ

＊フロッピーディスクドライブ内蔵モデルのみ

本製品は、購入したモデルによってフロッピーディスクドライブが内蔵されています。
フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 フロッピーディスク

フロッピーディスクについて説明します。

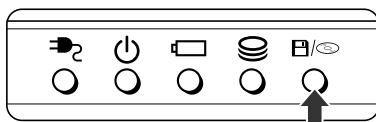
1 使用できるフロッピーディスク

本製品で使用できるフロッピーディスクには 3 種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1 枚に保存できる容量	読み出し / 書き込み	フォーマット
2DD タイプ	720KB	可	不可
2HD タイプ	1.2MB	可	不可
2HD タイプ	1.44MB	可	可

ソニー（株）製の 3.5 型フロッピーディスク（2DD ／ 2HD）を使用することを推奨します。
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクドライブに関する表示

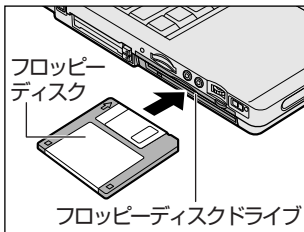
パソコン本体の電源が入っている場合、フロッピーディスクとデータをやり取りしているときは、FDD/CD-ROM 🖫/◎ LEDが点灯します。

2 フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

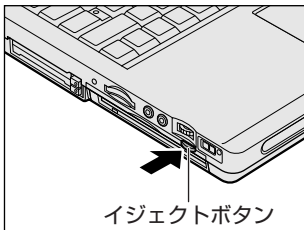
⚠注 意

パソコン本体の電源が入っている場合で、FDD/CD-ROM 🖫/◎ LEDが点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンに触れたり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
フロッピーディスクのデータやフロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

1 フロッピーディスクのセット

1 フロッピーディスクの隅に示されている矢印の向きにあわせて挿入する

「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

2 フロッピーディスクの取り出し

1 イジェクトボタンを押す

フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 フロッピーディスクの内容を確認する

1 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

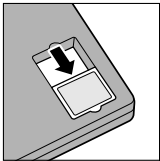
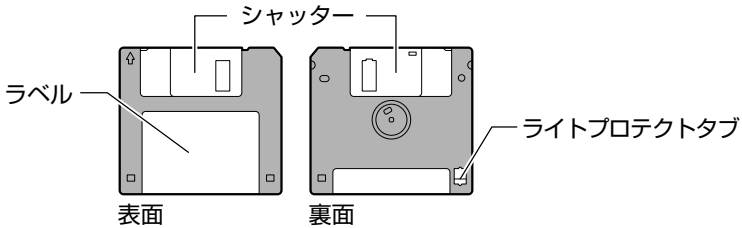
［マイ コンピュータ］画面が表示されます。

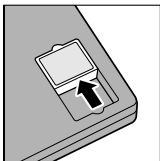
2 ［ 3.5インチ FD（A:)］をダブルクリックする

［3.5インチ FD（A:)］画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3 フロッピーディスクを使う前に

1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。

書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。

書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HD タイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HD タイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。
次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。
オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。
すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【 クイックフォーマット 】

以前に Windows でフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【 MS-DOS の起動ディスクを作成する 】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOS の起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

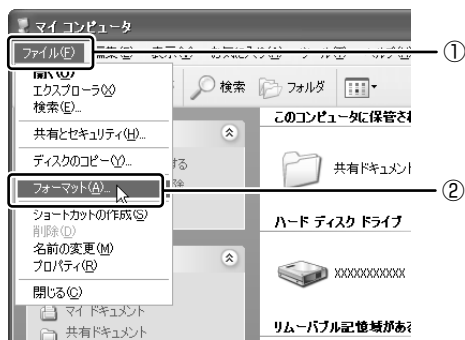
1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする

2 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

［マイ コンピュータ］画面が表示されます。

3 ［ 3.5 インチ FD（A:)］をクリックする

［3.5 インチ FD（A:)］が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの［ファイル］をクリックし①、表示されたメニューから［フォーマット］をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

［フォーマット 3.5 インチ FD（A:)］画面が表示されます。

5 必要に応じて［フォーマットオプション］を設定し、［開始］ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、［クイックフォーマット］をチェックしてから、［開始］ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順５から実行します。
フォーマットを終了する場合は、［フォーマット 3.5 インチ FD（A:)］画面で［閉じる］ボタン（ ☒ ）をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に１回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。
フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
  汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

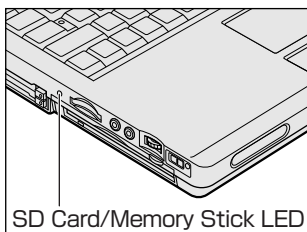
環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
  貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

11 SDメモリカード／メモリースティック

SD メモリカードまたはメモリースティックを SD カード / メモリースティックスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD カード / メモリースティックスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカード／メモリースティックとデータをやり取りしているときは、SD Card/Memory Stick ／ LED が点灯します。

1) SD メモリカードについて

本製品の SD カード / メモリースティックスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品＊[1] を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

＊1 2004 年 1 月現在、弊社製 SDIO カード「Bluetooth™ SD カード 2」（型番：PABSD001）のみ対応しています。

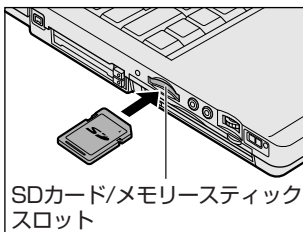
2 SD メモリカードのセットと取り出し

SD メモリカードを SD カード / メモリースティックスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

お願い

- SD Card/Memoy Stick LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD カード / メモリースティックスロットに挿入する

奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブを安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

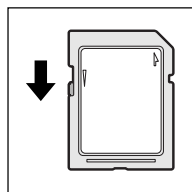
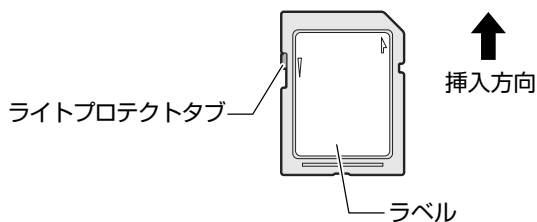
［マイコンピュータ］画面が表示されます。

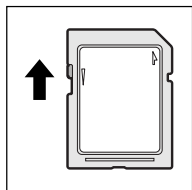
2 ［リムーバブルディスク（E:)］（標準値）をダブルクリックする

セットしたSD メモリカードの内容が表示されます。

3 SD メモリカードを使う前に

1 ライトプロテクトタブ

SD メモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。

書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSD メモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。

書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSD メモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。
新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
SD メモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝 SD メモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

ここでは「東芝 SD メモリカードフォーマット」を使用してフォーマットする方法を説明します。

お願い

「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SD メモリカードをセットする

参照 SD メモリカードのセットについて
「本節 ❷ SD メモリカードのセットと取り出し」

2 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SD メモリカードフォーマット］をクリックする**

［東芝 SD メモリカードフォーマット］画面が表示されます。

3 **［ドライブ］で、フォーマットしたい SD メモリカードがセットされているドライブを確認し、必要に応じて［フォーマットオプション］でフォーマットの種類を設定する**

- 簡易フォーマット
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- 完全フォーマット
  SD メモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

4 **［スタート］ボタンをクリックする**

メッセージが表示されます。

5 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。
フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

これで、フォーマットは完了です。
フォーマットを終了する場合は、［終了］ボタンをクリックしてください。

SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
  ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

4 メモリースティックについて

本製品の SD カード / メモリースティックスロットでは、Memory Stick Specification V1.3 準拠のメモリースティックを取り付けて使用できます。
使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック
- マジックゲート メモリースティック
  本製品は、著作権保護技術 MagicGate には対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- メモリースティック Duo
  メモリースティック Duo に付属のメモリースティック Duo アダプタを取り付けてから、使用してください。

お願い メモリースティックの使用にあたって

- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。
  したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

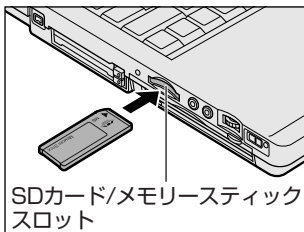
5 メモリースティックのセットと取り出し

メモリースティックをSDカード/メモリースティックスロットに挿入することを「メモリースティックをセットする」といいます。

お願い

- SD Card/Memory Stick LEDが点灯中は、電源を切ったり、メモリースティックを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
  データやメモリースティックが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メモリースティックを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メモリースティックは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メモリースティックが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 メモリースティックの表裏を確認し、表を上にして、SDカード/メモリースティックスロットに挿入する

奥まで挿入します。

2 取り出し

1 メモリースティックの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［USB大容量記憶装置デバイス - ドライブを安全に取り外します］をクリックする

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

2 メモリースティックを押す

メモリースティックが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 メモリースティックの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

［マイコンピュータ］画面が表示されます。

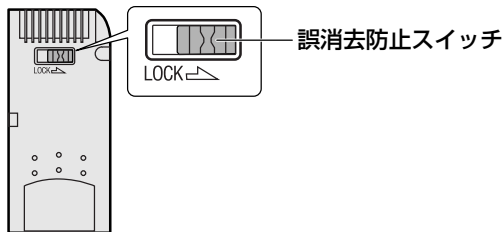
2 ［リムーバブルディスク（E:)］（標準値）をダブルクリックする

セットしたメモリースティックの内容が表示されます。

6 メモリースティックを使う前に

1 誤消去防止スイッチ

大切なデータを誤って消去しないように、メモリースティックにある誤消去防止スイッチを「LOCK」状態に切り替えることにより、メモリースティックへの書き込み（保存）を禁止できます。「LOCK」状態を解除すると、データの書き込みも読み取りもできます。

誤消去防止スイッチの詳細については、『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

2 メモリースティックのフォーマット

フォーマットとは、メモリースティックにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メモリースティックを使えるようにすることです。
新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows上（[マイコンピュータ] 画面）でメモリースティックのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのメモリースティックに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したメモリースティックを再フォーマットする場合は注意してください。

メモリースティックの取り扱い

メモリースティックを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- メモリースティックに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
  メモリースティックに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 端子を触らないでください。
  ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
  記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属のケースなどに入れてください。
- 汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- ラベルは正しい位置に貼ってください。
  貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。

12 ワンタッチボタン

本製品には、簡単にインターネットブラウザソフトやメールソフトなどを起動することができる、3つのワンタッチボタンがあります。

各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。
起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン .... Internet Explorer
- メールボタン .... Microsoft Office Outlook（Office搭載モデル）または Outlook Express
- サイバーサポートボタン .... サイバーサポート

【 パソコン本体の電源が入っていないとき 】

電源が入り、Windows起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【 スタンバイ状態／休止状態のとき 】

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

1 ボタンを割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押したときに起動するアプリケーションや、動作を設定することができます。

1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

2 ［ 東芝コントロール］をクリックする

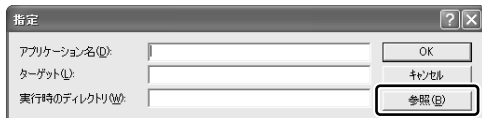
［東芝コントロールのプロパティ］画面が表示されます。

3 変更するボタン名の下の ボタンをクリックする

ボタンに設定できる動作の一覧が表示されます。

4 ［アプリケーションの指定］を選択する

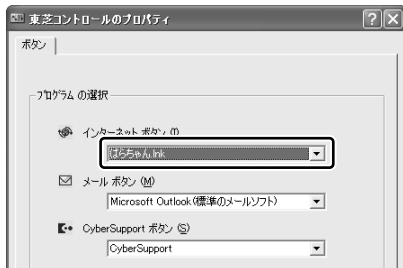
［指定］画面が表示されます。
このとき、他の項目を選択した場合は手順８に進んでください。

5 ［参照］ボタンをクリックする

［ファイルを開く］画面が表示されます。

6 ボタンに設定したいアプリケーション名をクリックし、［開く］ボタンをクリックする

［指定］画面に戻ります。
［アプリケーション名］に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

7 ［OK］ボタンをクリックする

［東芝コントロールのプロパティ］画面に戻ります。
割り当てたいボタンの欄に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

8 ［OK］ボタンをクリックする

2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。
パソコンでDVDやビデオカメラの映像を見たり、音楽を聴く。そのデータを編集し、CDやDVDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を見る。そのデータを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1　音楽CDを聴く　94
2　音楽ファイルを聴く　99
3　オリジナル音楽CDを作る　107
4　DVD-Videoを観る　112
5　デジタルカメラの写真を編集／整理する　118
6　オリジナルDVDを作る　121

1　音楽CDを聴く

本製品では音楽CDを聴くことができます。

メモ

音楽CDの再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 音楽CDを再生する

音楽CDを再生するためには、音楽CDに対応したアプリケーションが必要です。
本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- BeatJam（ビートジャム）
- Windows（ウィンドウズ） Media（メディア） Player（プレーヤ）

1 起動方法

1 Windowsが起動している状態で、音楽CDをセットする

［Audio CD（D:）］画面が表示されます。

参照 CDのセットについて『さあ始めよう 2章 1-❸ CD／DVD』

［Audio CD（D:）］画面が表示されない場合は、［マイ コンピュータ］で（D:）ドライブを右クリックし、［自動再生］をクリックしてください。

2 使用するアプリケーションを選択し、［OK］ボタンをクリックする

使用するアプリケーションが「BeatJam」の場合は［オーディオCDの再生 BeatJam使用］、「Windows Media Player」の場合は［オーディオCDを再生します Windows Media Player使用］を選択してください。
選択したアプリケーションが起動します。

「BeatJam」を起動したいのに［Audio CD（D:）］画面に［オーディオCDの再生 BeatJam使用］が表示されない場合は、［閉じる］ボタン（×）をクリックして画面を終了し、［スタート］→［すべてのプログラム］→［JUSTSYSTEMアプリケーション］→［BeatJam］→［BeatJam］をクリックして起動してください。

BeatJamを初めて起動したとき

初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認]画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する]ボタンをクリックしてください。[同意する]ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

Windows Media Playerを初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ]画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。
インストールオプションの設定では、[ファイルの種類]タブで[DVD ビデオ]のチェックをはずしてください。

DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。

役立つ操作集 ライフスタイルパネルで操作する

モデルによって同梱されているマルチAVパネルやオーディオパネルを使用すると、音楽CDやファイルの再生などをボタンで操作できます。

マルチAVパネル『TV／CD操作ガイド』
オーディオパネル「1章5-❸ オーディオパネルを使う」

2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

BeatJam を起動した場合

再生中にクリックすると、トラックの先頭から再生します。再生中でも、トラックが始まった直後の場合は、1つ前のトラックを再生します。

再生します。

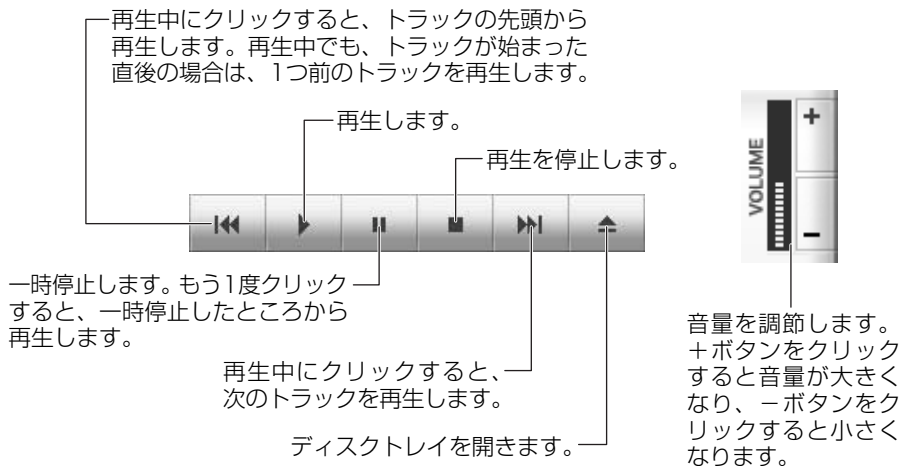
再生を停止します。

一時停止します。もう1度クリックすると、一時停止したところから再生します。

再生中にクリックすると、次のトラックを再生します。

ディスクトレイを開きます。

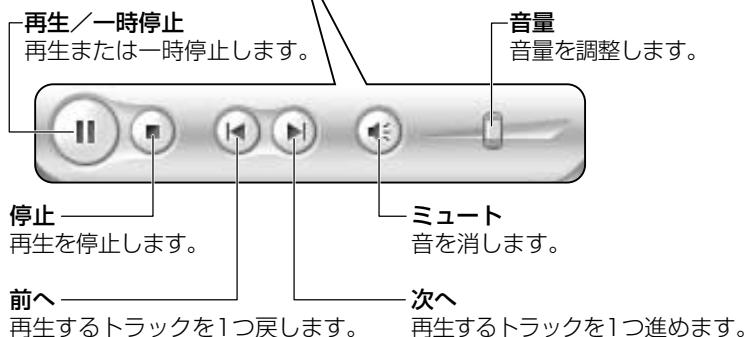
VOLUME

音量を調節します。＋ボタンをクリックすると音量が大きくなり、－ボタンをクリックすると小さくなります。

【 ヘルプの起動方法 】

1 **「BeatJam」を起動後、メニューバーから［ヘルプ］→［BeatJam の使い方］をクリックする**

参照 「BeatJam」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

Windows Media Playerを起動した場合

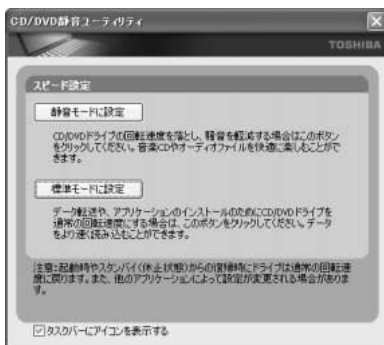
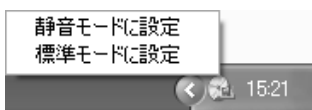
Windows Media Playerの画面の上の方にポインタをあわせるとタイトルバーやメニューバーが表示されます。

【 ヘルプの起動方法 】

1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする

参照 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 ドライブの動作音を軽減するには

音楽CDを楽しみたいときに、ドライブの回転速度をおさえ、動作音を軽減できます。「CD/DVD静音ユーティリティ」で設定します。
通知領域の［CD/DVD静音ユーティリティ］アイコン（ ）をダブルクリックすると、［CD/DVD静音ユーティリティ］画面が表示されますので、各モードの説明を確認してください。

モードを切り替えるには、選択するモードのボタンをクリックします。

また、通知領域の［CD/DVD 静音ユーティリティ］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューからモードを選択することもできます。

［CD/DVD 静音ユーティリティ］画面で［タスクバーにアイコンを表示する］のチェックをはずすと、通知領域のアイコン（ ）が消えます。
この場合、「CD/DVD 静音ユーティリティ」を起動するには、［コントロールパネル］→［ パフォーマンスとメンテナンス］→［ CD/DVD 静音ユーティリティ］をクリックします。
通知領域にアイコン（ ）をもう 1 度表示するには、［タスクバーにアイコンを表示する］をチェックしてください。

音楽 CD を聴き終わったあとは、「標準モード」に設定を戻してください。
「静音モード」に設定していると CD の読み出し速度が遅くなるため、「標準モード」よりも CD の読み出しに時間がかかります。

メモ

「静音モード」に設定しても、次のような場合は「標準モード」に切り替わります。

- 再起動したとき
- スタンバイ、休止状態から復帰したとき
- 「Drag'n Drop CD ＋ DVD」で CD のコピーを行うとき
- CD 速度を設定するアプリケーションを使用したとき

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

●WAVE形式（.wav）　●WMA形式（.wma）　●MP3形式（.mp3）　など

メモ

- 「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。
- 本製品に内蔵されているSDカード/メモリースティックスロットは、MagicGateに対応していないので、OpenMG形式の音楽ファイルをメモリースティックにチェックアウトできません。

1 BeatJamでファイルを再生する

1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

1 ［ライブラリ］ボタン（ ）をクリックする

［ライブラリ］画面が表示されます。

2 **画面左にある一覧で［すべての曲］をクリックし①、［マイコンピュータ］などで再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②**

音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。
プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

参照 プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

3 **画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②**

このとき画面左の［すべての曲］をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

4 **［再生］ボタン（ ）をクリックする**

選択したトラックが再生されます。
選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

1 **ライブラリにファイルを追加する**

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

- 音楽 CD のトラックをコピーする場合

①［CD］ボタン（ ）をクリックする
［CD］画面が表示されます。

②音楽 CD をドライブにセットする
自動的に再生が始まったときは、[停止]ボタン( )をクリックして停止してください。
[Audio CD]画面が表示されたときは、[キャンセル]ボタンをクリックして画面を閉じてください。
③一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック( )する
一覧の左下にある をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。 をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。
④[曲のビットレート](132k 105k 66k)で、どのビットレートで録音するかを選択する
ビットレート数が大きいほど、良い音質で録音されます。
⑤[録音]ボタン( )をクリックする
[CD の録音]画面が表示され、録音が始まります。
⑥録音が終わったら、[閉じる]ボタンをクリックする

役立つ操作集

曲情報を取り込む

音楽 CD の情報を Gracenote CDDB から取り込むことができます。
Gracenote CDDB については、BeatJam のヘルプを確認してください。
Gracenote CDDB は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDB で曲の情報を取り込めないときは、[Artist]にアーティスト名や、[Genre]にジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

- ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 1、2 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

2 [ライブラリ]ボタン( )をクリックする

3 [編集メニュー]ボタン( )をクリックして、表示されるメニューから[プレイリストの新規作成]をクリックする

画面左の[プレイリスト]に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。

4 **新しいプレイリストの名前を入力し、Enterキーを押す**

プレイリスト名が確定されます。

5 **追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある［すべての曲］～［お好み検索］から選択する**

6 **一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する**

Ctrlキーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。
Shiftキーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

7 **選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする**

プレイリストに曲が追加されます。

3 プレイリストから再生する

1 **［ライブラリ］ボタン（ ）をクリックする**

2 **画面左の一覧にある［プレイリスト］の中から、聴きたいプレイリストをクリックする**

3 **［再生］ボタン（ ）をクリックする**

一覧に表示されている順に再生されます。

役立つ操作集

RoomStyle プレーヤー

画面下にある［RoomStylePlayer］ボタン（ ）をクリックすると、RoomStyle プレーヤーに切り替わります。
音楽を聴きながら、RoomStyle プレーヤーに表示されるムービーを楽しめます。RoomStyle プレーヤーについては、BeatJam のヘルプを確認してください。

2 Windows Media Playerでファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。
音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

1 「Windows Media Player」のメニューバーから［ファイル］→［開く］をクリックする

2 聴きたい曲のファイルを選択し①、［開く］ボタンをクリックする②

再生が開始されます。

参照 Windows Media Playerの操作について「本章 1-❶-2 操作画面」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

● 音楽CDのトラックをコピーする場合

①音楽CDをセットする
②［CDから録音］ボタンをクリックする
③コピーするトラックをチェックする
④［音楽の録音］ボタンをクリックする
⑤［録音オプション（1 ／ 2)］画面でオプションを選択する
⑥「CDから録音される音楽が、…」の項目を読み、チェックする
⑦［次へ］ボタンをクリックする
⑧［録音オプション（2 ／ 2)］画面でオプションを選択する
⑨［完了］ボタンをクリックする

● ファイルを追加する場合

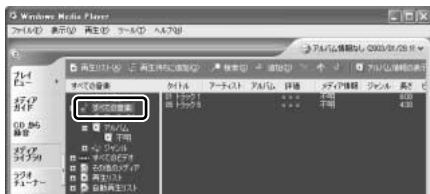
①メニューバーから［ファイル］→［メディアライブラリに追加］→［ファイルまたは再生リストを追加］をクリックする
②［ファイルを開く］画面でファイルを選択する

● インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合

①メニューバーから［ファイル］→［メディアライブラリに追加］→［URLを追加］をクリックする
②［開く］画面でURLまたはパスを指定する

2 ［メディアライブラリ］ボタンをクリックする

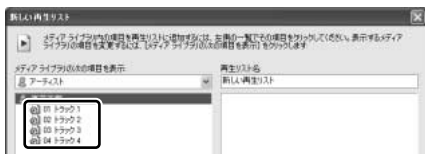
メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。［いいえ］ボタンをクリックしてください。

3 ［すべての音楽］をクリックする

メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 ［再生リスト］ボタンをクリックし①、表示されたメニューから［新しい再生リスト］をクリックする②

5 ［メディア ライブラリの次の項目を表示］で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②

ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする

クリックしたファイルが、［再生リスト名］の下に表示されます。

7 ［再生リスト名］に再生リストの名前を入力し①、［OK］ボタンをクリックする②

ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 ［メディアライブラリ］画面で、目的の再生リストをクリックする

リストの内容が右画面に表示されます。

2 ［再生］ボタン（ ▶ ）をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

「Drag'n Drop CD ＋ DVD」（ドラッグン ドロップ シーディープラス ディーブイディー）は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。
ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。
データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD ＋ DVDを使うために

お願い CD-RW、CD-Rに書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD ＋ DVD」を使用してください。本製品に添付の「Drag'n Drop CD ＋ DVD」以外の CD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。
CD-RW、CD-Rに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。

  参照 CD-RW、CD-R について 「1章 9-❷ 使用できるCD」

- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

  参照 省電力機能について『応用にチャレンジ 3章 バッテリ駆動』

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバ
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・モデムなどの通信アプリケーション　　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

- SD メモリカード、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「Drag'n Drop CD+DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 本製品に付属している「Drag'n Drop CD + DVD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」の［Music BOX］（ ）を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

お願い　書き込み／削除を行うにあたって

- Drag'n Drop CD + DVD は DVD-RAM メディアへの書き込みをサポートしていません。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
  PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、テレビ、i.LINK 対応機器、
  SD メモリカード、メモリースティック、パラレルコネクタに接続する機器、
  テレビ
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 Drag'n Drop CD＋DVDを使う

「Drag'n Drop CD＋DVD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。
「Drag'n Drop CD＋DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Drag'n Drop CD＋DVD］→［Drag'n Drop CD＋DVD］をクリックする

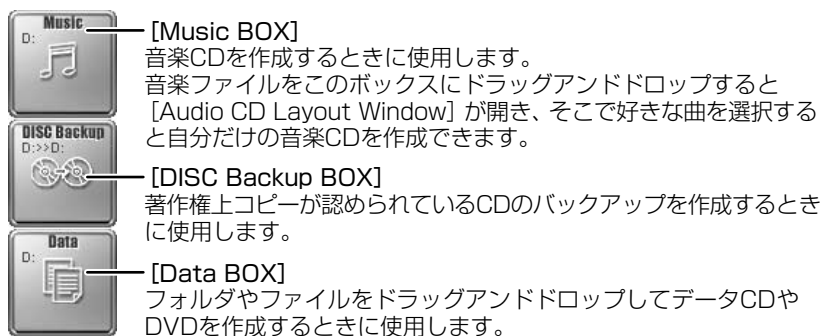
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD＋DVDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。

［Music BOX］
音楽CDを作成するときに使用します。
音楽ファイルをこのボックスにドラッグアンドドロップすると［Audio CD Layout Window］が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。

［DISC Backup BOX］
著作権上コピーが認められているCDのバックアップを作成するときに使用します。

［Data BOX］
フォルダやファイルをドラッグアンドドロップしてデータCDやDVDを作成するときに使用します。

参照 詳細について『困ったときは 2章 2 バックアップをとる』

CDに保存されているWMA方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接［Music BOX］にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽 CD をドライブにセットする

［Audio CD（D:)］画面が表示された場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

2 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

3 ［Audio CD（D:)］アイコン（ ）を、［Music BOX］にドラッグアンドドロップする

［Audio CD Layout Window］画面が表示され、［音楽 CD トラック情報］には曲情報が表示されています。

4 ［ブランク CD サイズ］を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。
［再生］ボタン（ ）をクリックすると試し聴きできます。

6 ［選択トラックをリストに追加］ボタン（ ）をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、［デジタル抽出状況］のバーで確認できます。［ベストアルバムトラック情報］に抽出した曲が表示されます。

曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。
不要なトラックは ボタンで削除できます。
他の音楽 CD からも取り込みたい場合は、ここで音楽 CD を入れ替え、手順 5、6 を繰り返します。

7 **音楽CDを取り出し、未使用のCD-Rをセットする**

8 **［書き込み］ボタン（　）をクリックする**

CDへの書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD＋DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 **［スタート］→［すべてのプログラム］→［Drag'n Drop CD＋DVD］→［Drag'n Drop CD＋DVD Help］をクリックする**

「Drag'n Drop CD＋DVD」のヘルプが表示されます。

参照 「Drag'n Drop CD＋DVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD＋DVDを終了する

「Drag'n Drop CD＋DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

1 **通知領域の［Drag'n Drop CD＋DVD］アイコン（　）を右クリックし、表示されたメニューから［終了］をクリックする**

デスクトップ上に表示されていたアイコンが消えます。

4 DVD-Videoを観る

本製品は、ドライブにDVD-Videoをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。
DVD-Video再生ソフトウェアとして、「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Videoの再生にあたって

- DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。
  「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。
- DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD-Video再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD再生」プロファイルに設定してください。
- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
  再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。
- DVD-Videoの再生はRegionコード「2」、「ALL」のものをご使用ください。
- 外部ディスプレイまたはテレビに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビの同時表示）の設定では、外部ディスプレイまたはテレビに表示するための設定が必要です。
  内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイにClone表示をしているときDVD-Videoを再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、内部液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示するか、拡張表示に設定してください。

  参照 表示装置の切り替え『応用にチャレンジ 2章 4-2 テレビに表示する』

  その他の注意については、「Readme」に記載しています。
  「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVDを起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

1 起動方法

1 DVD-Videoをセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVDのセットについて『さあ始めよう 2章 1-❸ CD／DVD』

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、［マイ コンピュータ］で（D:）ドライブをダブルクリックしてください。
「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 ［DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD使用］を選択し①、［OK］ボタンをクリックする②

「InterVideo WinDVD」が起動します。

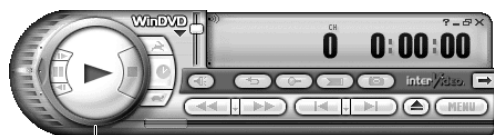
［インタービデオ製品登録］画面が表示された場合、インターネット経由で登録を行うときは［インターネット接続環境にあり、オンラインで登録を行います］が選択されていることを確認し、［継続］ボタンをクリックしてください。登録を行わないときは、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

メモ

［スタート］メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［InterVideo WinDVD］→［InterVideo WinDVD］をクリックしてください。

2 InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウとWinDVDコントロールパネルが表示されます。
再生するDVD-Videoによっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

WinDVDコントロールパネル
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。

ボリューム
上にドラッグすると音量が上がります。
下にドラッグすると音量が下がります。

ヘルプ
ヘルプを表示します。

最小化
画面を最小化します。

可変速早送り／早戻し
ダイヤルをドラッグして再生速度を任意に変更します。速度によっては、音声が出力されなくなります。

フルスクリーン
画面を最大化します。

カウンタ
再生中のDVDのチャプターや再生時間などを表示します。

閉じる
WinDVDを終了します。

サブパネルを表示します。

コマ戻し

一時停止

コマ送り

再生

停止

タイムスライダー
スライダーバーをドラッグしてタイトル内の位置を移動します。

ミュート
クリックすると消音になります。
消音の状態でクリックすると元の音量に戻ります。

クリックするごとに再生速度を速くします。

クリックするごとに再生速度を遅くします。

2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【 サブパネルの表示と切り替え 】

1 WinDVD コントロールパネルの［サブパネル］ボタンをクリックする

2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【 サブパネルの非表示 】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

1 ［サブパネルを閉じる］ボタンをクリックする

3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は［セットアップ］画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

1 サブパネルの［セットアップ］ボタンをクリックする

［セットアップ］画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 テレビまたは外部ディスプレイに表示する

パソコン本体にテレビまたは外部ディスプレイを接続して、DVD-Videoの再生画面を表示させることができます。
「InterVideo WinDVD」を起動する前に、表示装置を切り替えてください。
また、内部液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイに同時に表示させる場合は、設定が必要です。

参照 詳細について『応用にチャレンジ 2章 4 テレビを接続する』
『応用にチャレンジ 2章 5 外部ディスプレイを接続する』

ヘルプの起動方法

1 WinDVDコントロールパネルの［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリックする

参照 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

役立つ操作集

ライフスタイルパネルで操作する

モデルによって同梱されているマルチAVパネルやオーディオパネルを使用すると、DVD-Videoの再生などをボタンで操作できます。

参照 マルチAVパネル『TV／CD操作ガイド』
オーディオパネル「1章 5-❸ オーディオパネルを使う」

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「デジカメ Walker（ウォーカー）（Ulead（ユーリード） iPhoto（アイフォト） Express（エクスプレス））」が用意されています。
「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［デジカメ Walker］→［Ulead iPhoto Express］をクリックする

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。
デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

1 ［編集］モード（ ）でコマンドパネルから［フォト取り出し］→［マイコンピュータ］をクリックする

オプションパネルに［参照中のフォルダ］が表示されます。

2 をクリックし、表示されたメニューから編集する写真のあるフォルダをクリックする

オプションパネルにサムネイルが表示されます。

3 編集する画像のサムネイルをクリックし、［開く］ボタンをクリックする

作業領域に画像が表示されます。

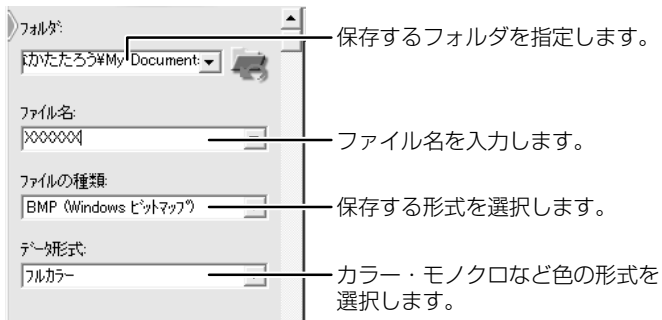
4 コマンドパネルから［編集］のメニューをクリックし、画像を加工する

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

1 コマンドパネルから［共有］→［保存］をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。

2 ［保存］ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

1 「デジカメ Walker（Ulead iPhoto Express）」を起動後、メニューバーから［ヘルプ］→［Ulead iPhoto Express のヘルプ］をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［デジカメ Walker］→［Screenbook］をクリックする

参照 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 オリジナル DVD を作る

「WinDVR(ウィンディーブイアール)」や「WinDVD Creator 2 Platinum(ウィンディーブイディー クリエーター プラチナム)」を使ってデジタルビデオカメラやアナログのビデオカメラ*[1]で撮影した映像、またはビデオデッキで録画した映像を本製品に取り込み、編集できます。また DVD マルチドライブモデルまたは DVD-R/-RW ドライブモデルでは、編集した映像データを DVD に書き込むこともできます。

＊1　ここでいうアナログのビデオカメラとは、VHS や S-VHS、8mm カメラや Hi-8 カメラを示します。

2章 音楽と映像

お願い WinDVD Creator 2 Platinumの使用にあたって

- 「InterVideo WinDVD」などの映像を再生するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示されない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されているDVD-RW、DVD-Rの映像の編集は行えません。
- 著作権保護されているコンテンツは再生できません。
- 「WinDVD Creator 2 Platinum」の動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。
- テレビ番組、ビデオデッキやアナログのビデオカメラのテープの映像を取り込み（録画）、編集するときは、まず「WinDVR」を使用して映像を取り込み、その後「WinDVD Creator 2 Platinum」で編集してください。「WinDVR」と「WinDVD Creator 2 Platinum」の使いかたについては、同梱の『interVideo WinDVRユーザーズ・マニュアル』と『interVideo WinDVD Creator 2 Platinumユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

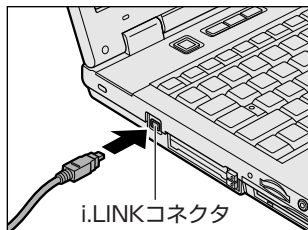
1 映像データをパソコンに取り込む

お願い 映像データを取り込む前に

- デジタルビデオカメラの映像を取り込むときは「WinDVD Creator 2 Platinum」を、テレビ番組、ビデオデッキやアナログのビデオカメラのテープの映像を取り込む（録画）ときは「WinDVR」を使用してください。本製品に付属の「WinDVD Creator 2 Platinum」、「WinDVR」以外の映像データを取り込むソフトウェアは、動作保証していません。
  本製品に既にインストールされている「Windows Movie Maker 2」やその他の映像データを取り込むソフトウェアは使用しないでください。
- バッテリ駆動で使用中に映像データの取り込みを行うと、バッテリ消耗などによって取り込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタでパソコンを電源に接続して使用してください。

1 デジタルビデオカメラの場合

デジタルビデオカメラを接続し、映像データをパソコンに取り込みます。

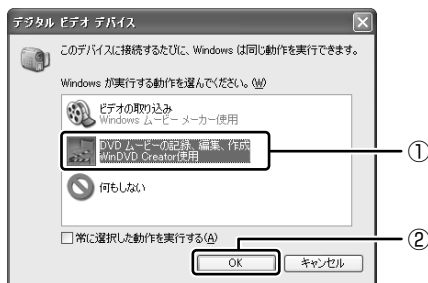
1 i.LINK（IEEE1394）ケーブルをパソコン本体に接続する

プラグの向きを確認して差し込んでください。

参照 i.LINKケーブルの接続の詳細
『応用にチャレンジ 2章 7 i.LINK（IEEE1394）対応機器を接続する』

2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する

3 デジタルビデオカメラの電源を入れる

［デジタル ビデオ デバイス］画面が表示されます。

4 ［DVDムービーの記録、編集、作成 WinDVD Creator使用］を選択し①、［OK］ボタンをクリックする②

「WinDVD Creator 2 Platinum」が起動します。

「WinDVD Creator 2 Platinum」が起動しない場合は、［スタート］→［すべてのプログラム］→［InterVideo WinDVD Creator］→［InterVideo WinDVD Creator］をクリックして起動してください。

「WinDVD Creator 2 Platinum」の使いかたについては、同梱の『interVideo WinDVD Creator 2 Platinumユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

ヘルプの起動方法

1 メニューバーの［ヘルプ］→［ヘルプ］をクリックする

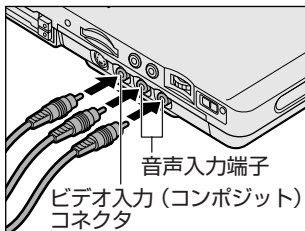
参照 「WinDVD Creator 2 Platinum」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 アナログのビデオカメラやビデオデッキなどの場合

＊TV チューナ内蔵モデルのみ

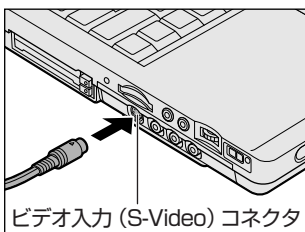
本製品にケーブルを使ってアナログのビデオカメラやビデオデッキなどを接続すると、映像を取り込むことができます。取り込んだ映像は、編集したり、DVD に書き込んだりできます。

【 ビデオケーブルの接続 】

1 ビデオケーブルのプラグをパソコン本体の音声入力端子（赤：音声右、白：音声左)、ビデオ入力（コンポジット）コネクタ（黄）に差し込む

取りはずすときは、音声入力端子、ビデオ入力（コンポジット）コネクタからビデオケーブルのプラグを抜きます。

2 ビデオケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む

【 S 端子ケーブルの接続 】

1 S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体のビデオ入力（S-Video）コネクタに差し込む

取りはずすときは、ビデオ入力（S-Video）コネクタから S 端子ケーブルのプラグを抜きます。

2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグを接続する機器の出力端子に差し込む

音声は、ビデオケーブルで音声入力端子（赤：音声右、白：音声左）に接続して聞いてください。

ケーブルでアナログのビデオカメラやビデオデッキなどを接続したら、「WinDVR」を起動してください。
［スタート］→［すべてのプログラム］→［InterVideo WinDVR］→［InterVideo WinDVR］をクリックすると起動します。
「WinDVR」の使いかたについては、同梱の『interVideo WinDVR ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。また、『TV ／ CD 操作ガイド』もよくお読みください。

ヘルプの起動方法

1 WinDVR コントロールパネルの［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックする

参照 「WinDVR」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 映像データの編集について

映像データを「WinDVD Creator 2 Platinum」で編集することができます。
編集の方法については、同梱の『interVideo WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

お願い 編集した映像データについて

- 編集した映像データを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

編集した映像データは、デジタルビデオ機器に出力することができます。

3 映像データをDVDに書き込む

＊DVDマルチドライブモデルまたはDVD-R/-RWドライブモデルのみ

映像データをDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込むことができます。
書き込み方法については、同梱の『interVideo WinDVD Creator 2 Platinum ユーザーズ・マニュアル』をご覧ください。

お願い

映像データをDVDに書き込む前に

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

  参照 DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて
  「1章9-❸ 使用できるDVD」

  守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。
- 本製品に付属の「WinDVD Creator 2 Platinum」以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを使用してパソコンを電源に接続して使用してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

  参照 詳細について『応用にチャレンジ 3章 2 省電力の設定をする』
  『応用にチャレンジ 3章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る』
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバ
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・モデムなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。

書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
  PCカード、USB対応機器、外部ディスプレイ、i.LINK対応機器、SDメモリカード、メモリースティック、パラレルコネクタに接続する機器、テレビ
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 書き込み済みのDVD-RWに書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD＋DVD」などで消去する必要があります。
  消去方法については、「Drag'n Drop CD＋DVD」のヘルプを確認してください。

参照 「Drag'n Drop CD＋DVD」のヘルプ
「本章3-❷ Drag'n Drop CD＋DVDを使う」

「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ムービー作成」について

- 「ムービー作成」では-VRフォーマットでの書き込みはできません。
- 書き込みが可能なDVD-RW、DVD-Rへ最大約2時間の映像データをDVD-Videoフォーマットで記録できます。
- DVD-AudioやVideo CD、miniDVDを作成することはできません。
- DVDマルチドライブモデルの場合、DVD-RAMにDVD-Videoフォーマットで記録できますが、作成されたメディアは本製品にインストールされている「InterVideo WinDVD」でのみ再生可能となります。
- DVD-RW、DVD-Rへ書き込みを行うには、ビデオの長さ1時間当たりハードディスクに2GB以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- DVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさや編集のしかたによってはデータの変換に数時間かかることがあります。

作成したDVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）、DVD-RW、DVD-Rについて

- 作成したDVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）、DVD-RW、DVD-Rは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合があります。
- 作成したDVD-RAM（DVDマルチドライブモデルのみ）、DVD-RW、DVD-Rを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。
  「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

「WinDVD Creator 2 Platinum」の「ディスクマネージャ」について

- 「ディスクマネージャ」では、映像データを -VR フォーマットで DVD-RAM に（DVD マルチドライブモデルのみ）、または、DVD-Video フォーマットで DVD-RW に記録することができます。
- DVD マルチドライブモデルの場合、「ディスクマネージャ」では、-VR フォーマットで記録された DVD-RAM の映像データを編集することができます。
- DVD-RW、DVD-R に -VR フォーマットでの書き込みはできません。
- DVD マルチドライブモデルの場合、DVD-RAM へ書き込むには、あらかじめフォーマットツールで UDF2.0 形式のフォーマットをしておく必要があります。

参照 DVD-RAM のフォーマット「1 章 9-❹ DVD-RAM を使うときは」

- 扱えるプレイリストは 1 個だけです。
- DVD-RAM レコーダでプログラムなどに設定したサムネイル画像と異なるサムネイル画像が表示されることがあります。
- DVD-RAM をドライブにセットしても、「ディスクマネージャ」でメディアの内容が認識できないことがあります。
  FDD/CD-ROM LED が点灯または点滅中は処理中なので、消灯するまでお待ちください。FDD/CD-ROM LED の消灯後にメディアの内容が認識できない場合は、「ディスクマネージャ」の［ドライブの選択］の ボタンをクリックし、表示されたメニューから本製品のドライブを選択してください。
  また DVD-R/-RW ドライブモデルの場合、「ディスクマネージャ」で DVD-RAM は使用できません。

さくいん

記号

キー 24
キーを使った
　ショートカットキー 29

A

AC アダプタの仕様 21
Alt キー .... 24，25
Arrow Mode LED .... 25，26

B

BackSpace キー 25
Battery LED 23
BeatJam .... 94，99

C

Caps Lock LED.................... 24，26
Caps Lock 英数キー 24
CD/DVD 静音ユーティリティ 97
CD の取り扱い 75
Ctrl キー .... 24，25

D

DC IN LED 23
Del キー 25
Disk LED 23
Drag'n Drop CD ＋ DVD 107
DVD-Video を観る 112
DVD の取り扱い 75

E

Enter キー 25
Esc キー 24

F

FDD/CD-ROM LED 23
Fn キー 24
Fn キーを使った特殊機能キー 27

I

i.LINK コネクタ 16
IEEE1394 コネクタ 16
Ins キー 25
InterVideo WinDVD 112

L

LAN コネクタ 18
LINE OUT 端子 16

N

Numeric Mode LED .... 25，26

P

PadTouch 36
Pause キー 25
PC カードスロット 16
Power LED 23
PrtSc キー 25

R

RGB コネクタ 18

S

S-Video 出力コネクタ 18
SD カードスロット 16
SD メモリカードのセット 83
SD メモリカードの取り扱い 87
SD メモリカードの取り出し 83
Shift キー .... 24，25
Space キー 24

T

Tab キー 24
TFT 方式カラー液晶ディスプレイ
.... 50
TV チューナ 16

U

USB コネクタ 18

W

Windows Media Player ... 94, 103
WinDVD Creator 2 Platinum
.... 121
WinDVR 121

ア

アプリケーションキー 25
アロー状態 26
アンテナ入力端子 18

イ

インジケータ 16
インスタントセキュリティ機能 27
インターネットボタン 17

ウ

ウィンドウズキー 24

エ

液晶ディスプレイの取り扱い 57

オ

オーディオパネルの取り付け 47
オーディオパネルの取りはずし 45
オーバレイキー 25
大文字ロック状態 26
オリジナル DVD を作る 121
オリジナル音楽 CD を作る 107
音楽 CD を聴く 94
音楽ファイルを聴く 99
音声入力端子 17

カ

画素 51
カタカナ／ひらがなキー 25
型番 19

キ

キーボード 16
キーボードの取り扱い 30

ク

クリック 32
くるくる壁紙チェンジャー 52

コ

誤消去防止スイッチ
（メモリースティック）............... 89

サ

サイバーサポートボタン 17

シ

使用できる CD 67
使用できる DVD 69
使用できるフロッピーディスク 76
使用できるメモリースティック 87

ス

数字ロック状態 26
スクロールスイッチ 16, 34
スピーカ 16

セ

製造番号 19
セキュリティロック・スロット 16

ソ

増設メモリスロット 19

タ

タッチパッド .... 16，31
タッピング 32
ダブルクリック 32

チ

チルト 19

ツ

通風孔 18

テ

ディザリング 51
ディスプレイ 16
ディスプレイ開閉ラッチ 16
デジカメ Walker.......................... 118
デジタルカメラの写真を
編集／整理する 118
電源コードの仕様 21
電源コードの取り扱い 22
電源コネクタ 18
電源スイッチ 17
電源スイッチについて 17

ト

東芝 SD メモリカードフォーマット
.... 85
特殊機能キー 30
ドライブ 18
ドラッグアンドドロップ 32

ナ

内蔵マイク 16

ニ

日本語入力パネル 41
日本語入力パネルの取り付け 47
日本語入力パネルの取りはずし 45

ハ

パソコン本体の取り扱い 22
バックライト用蛍光管 57
バッテリパック 19
パラレルコネクタ 18
半／全キー 24

ヒ

左ボタン 16
ビデオ入力（S-Video）コネクタ
.... 17
ビデオ入力（コンポジット）コネクタ
.... 17
表示可能色数 50

フ

ファンクションキー 24
フォーマット（DVD-RAM） 71
フォーマット（SD メモリカード）
.... 85
フォーマット（フロッピーディスク）
.... 79
フォーマット（メモリースティック）
.... 90

フォトフレームパネルの取り付け 47
フォトフレームパネルの取りはずし 45
フラットパネルの取り付け 49
フラットパネルの取りはずし 48
フロッピーディスクドライブ 16
フロッピーディスクドライブの手入れ 81
フロッピーディスクのセット 77
フロッピーディスクの取り扱い 81
フロッピーディスクの取り出し 77

ヘ

ヘッドホン出力端子 16
変換キー 25

ホ

保護フィルム 19
ボリュームコントロール.................. 59
ボリュームダイヤル .... 16，59

マ

マイク入力端子 16
マルチ AV パネル 41
マルチ AV パネルの取り付け 47
マルチ AV パネルの取りはずし 45

ミ

右ボタン... 16

ム

無変換キー 24

メ

メールボタン 17
メモリースティックスロット 16
メモリースティックのセット 88
メモリースティックの取り扱い 90
メモリースティックの取り出し 88

モ

モジュラージャック 18

ヤ

矢印キー 25

ラ

ライトプロテクトタブ
（SD メモリカード）.................... 84
ライトプロテクトタブ
（フロッピーディスク）............... 78
ライフスタイルパネル .... 16，41
ライフスタイルパネルの交換 45

リ

リリース情報 8

ロ

録音レベルの調整 60

ワ

ワイヤレスコミュニケーション
スイッチ 16
ワンタッチボタン 91